
「第2次さぬき市男女共同参画プラン（後期計画）」
男女共同参画に関する意識調査報告書
【教職員アンケート】

平成30年1月
香川県 さぬき市

～ 目 次 ～

I 調査概要	1
II 回答者属性	3
1 性別	3
2 年齢	3
3 勤務先	4
III 調査結果	5
【1】男女平等について	5
1 家庭生活に対する考え方	5
2 男女の平等意識	8
3 望ましい女性の働き方	11
【2】学校での男女平等について	13
1 性別を意識した発言	13
2 性別を意識した発言の内容	15
3 性別を意識した扱いの状況	18
4 進路選択時の性別意識	21
5 進路指導時の性別意識	24
【3】男女平等教育について	25
1 男女平等教育の取組状況	25
2 男女共同参画の実現をめざす取組	27
【4】学校でのデートDVについて	30
1 デートDVの認知状況	30
2 相談の状況	31
【5】男女共同参画社会の形成について	32
1 用語の認知度	32
2 さぬき市に期待する取組	35
【6】その他	38
1 自由意見・要望	38
資料 調査票	40

I 調査概要

【調査目的】

「第2次さぬき市男女共同参画プラン（後期計画）」の策定に当たり、市内小学校及び中学校教職員における男女共同参画に関する教育現場での意識や実態、問題点や意見等を調査し、施策を検討する上での基礎資料とすることを目的として実施した。

【調査対象】

市内小学校及び中学校の教職員

【調査方法】

各学校を通して配付、回収

【調査期間】

2017年（平成29年）8～9月

【回収結果】

配布数 ----- 80件

有効回収数 ----- 80件

有効回収率 ----- 100.0%

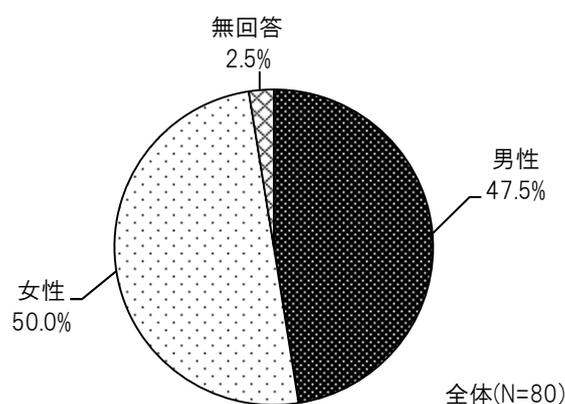
【報告書の見方について】

- (1) 集計は小数点以下第2位を四捨五入している。したがって、回答比率の合計は必ずしも100%にならない場合がある。
- (2) 2つ以上の回答を可能とした(複数回答)質問の場合、その回答比率の合計は100%を超える場合がある。
- (3) 数表、図表、文中に示すNは、比率算出上の基数(標本数)である。全標本数を示す「全体」を「N」、「該当数」を「n」で表記している。
- (4) 図表中における性別などのクロス集計結果については、該当する属性等の設問に対する無回答者(例えば、性別でクロス集計する場合における性別の無回答者)を除いて表記しているため、属性ごとの基数の合計と全体の基数は同じにならない場合がある。
- (5) 図表中においては見やすさを考慮し、回答割合が極端に少ない数値(例:0.0%、0.1%など)は、図と干渉して見えにくい場合などに省略している場合がある。また、複数回答の図表中においては、見やすさを考慮し、回答割合の高い順に並べ替えて表記している場合がある。
- (6) 設問によっては、平成20年度及び24年度に実施された、同調査との比較を行っている(時系列推移)。その際、図表等の表記は平成20年度調査を「前々回(H20)」、平成24年度調査を「前回(H24)」と略記している。
- (7) 「その他」については、特記すべき事項はなかった。
- (8) この他、個別に参照事項がある場合は、本報告書の該当箇所に適宜記載した。

II 回答者属性

1 性別

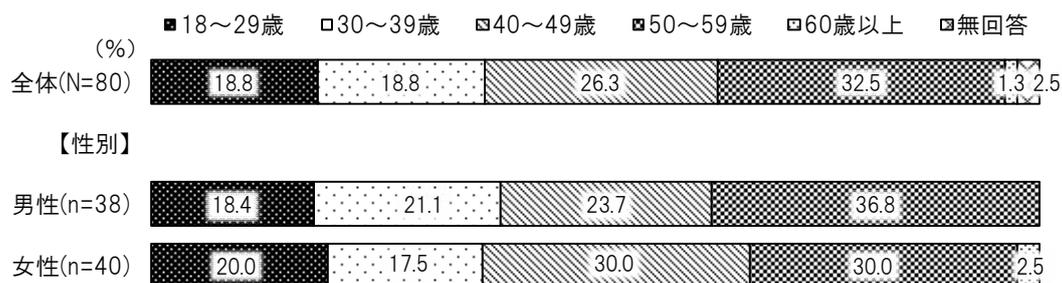
回答者の性別構成比は、「男性」が 47.5%、「女性」が 50.0%と、おおむね二分している。



2 年齢

年齢別構成は、「50～59 歳」が 3 割以上 (32.5%) を占め最も高く、次いで「40～49 歳」(26.3%) が続き、『40～59 歳 (合計)』で全体の約 6 割 (58.8%) を占めている。

性別では、男性は女性に比べ「50～59 歳」の割合が高く、女性は「40～49 歳」の割合が男性を上回っている。

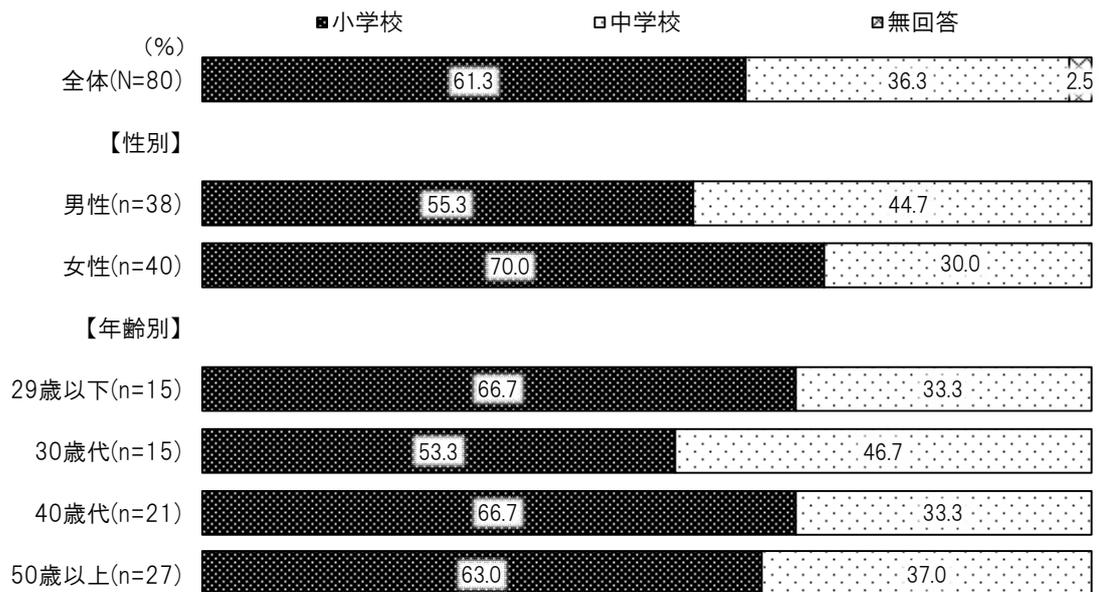


3 勤務先

勤務先については、「小学校」が約6割(61.3%)を占めており、中学校は36.3%となっている。

性別では、女性は「小学校」の割合が7割を占め、男性を大きく上回っている。

年齢別では、「中学校」の割合が30歳代で高くなっている。



Ⅲ 調査結果

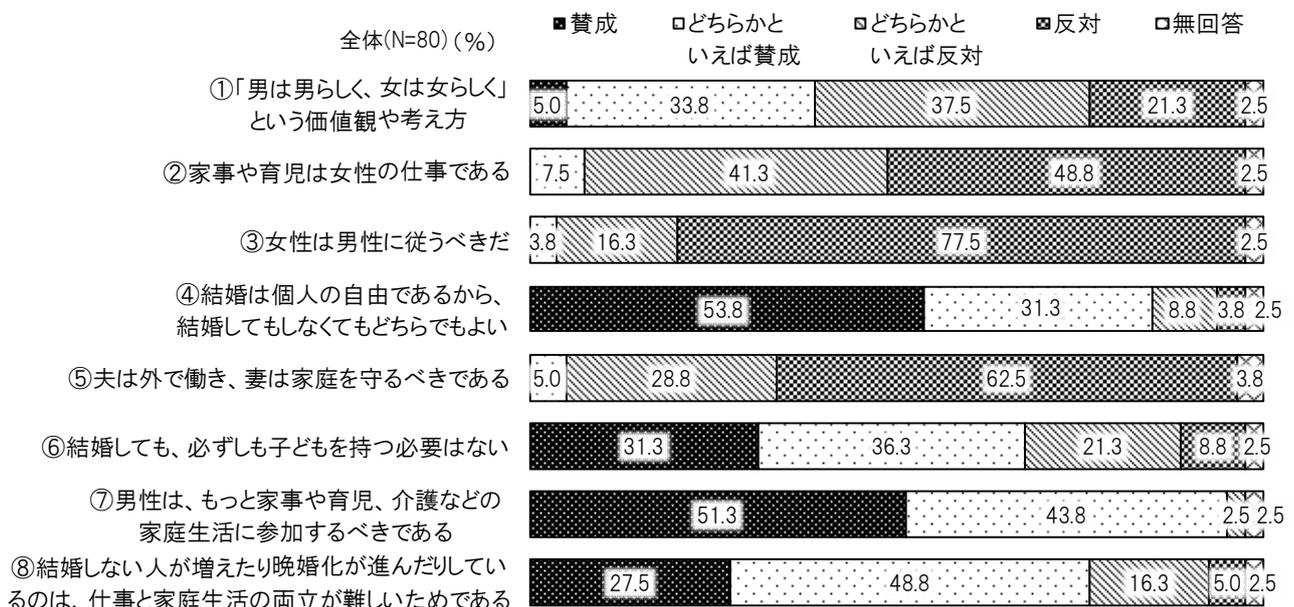
【1】男女平等について

1 家庭生活に対する考え方

問4 あなたは、次の①から⑧までの項目について、どのように思いますか。
(○印1つつ)

結婚、家庭生活と男女の役割については、「賛成」と「どちらかといえば賛成」を合計した『賛成意識』の割合が高い順に、「⑦男性は、もっと家事や育児、介護などの家庭生活に参加するべきである」(95.1%)、「④結婚は個人の自由であるから、結婚してもしなくてもどちらでもよい」(85.1%)、「⑧結婚しない人が増えたり晩婚化が進んだりしているのは、仕事と家庭生活の両立が難しいためである」(76.3%)となっている。特に、「④結婚は個人の自由であるから、結婚してもしなくてもどちらでもよい」「⑦男性は、もっと家事や育児、介護などの家庭生活に参加するべきである」の「賛成」割合がそれぞれ過半数を占め高くなっている。

一方、「どちらかといえば反対」と「反対」を合計した『反対意識』では、「③女性は男性に従うべきだ」(93.8%)、「⑤夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」(91.3%)、「②家事や育児は女性の仕事である」(90.1%)などが高くなっている。



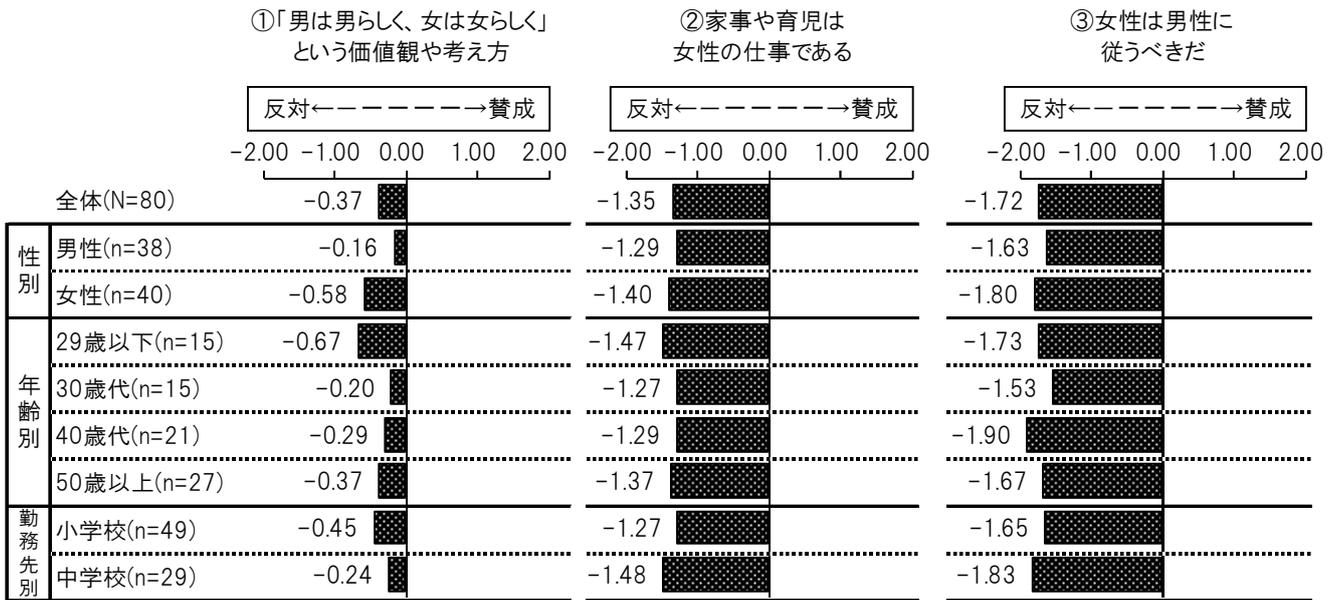
平均評定値による属性別傾向をみると、性別では、男性は「⑧結婚しない人が増えたり晩婚化が進んだりしているのは、仕事と家庭生活の両立が難しいためである」の『賛成意識』が女性を大きく上回っている。一方、女性は「①男は男らしく、女は女らしくという価値観や考え方」の『反対意識』が男性を大きく上回っている。

年齢別では、おおむね若い年齢層ほど『賛成意識』が高くなる項目として、「④結婚は個人の自由であるから、結婚してもしなくてもどちらでもよい」「⑥結婚しても、必ずしも子どもを持つ必要はない」「⑧結婚しない人が増えたり晩婚化が進んだりしているのは、仕事と家庭生活の両立が難しいためである」があげられる。また、特に 29 歳以下の年齢層で「①男は男らしく、女は女らしくという価値観や考え方」の『反対意識』が高くなっている。

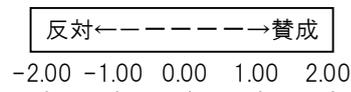
勤務先別にみると、中学校は「⑥結婚しても、必ずしも子どもを持つ必要はない」の『賛成意識』が高くなっている。

◆平均評定値による属性別傾向◆

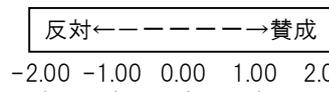
平均評定値とは、「反対」に-2点、「どちらかといえば反対」に-1点、「どちらかといえば賛成」に+1点、「賛成」に+2点の係数を、それぞれの回答件数に乘じ、加重平均して算出した値で、-2に近いほど反対、+2に近いほど賛成を示す指標である。



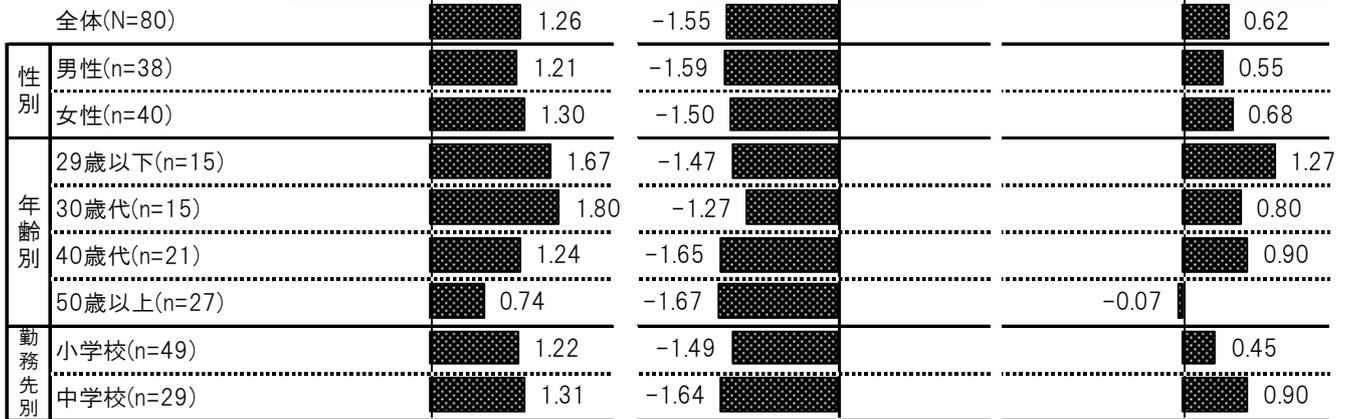
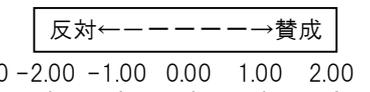
④結婚は個人の自由であるから、結婚してもしなくてもどちらでもよい



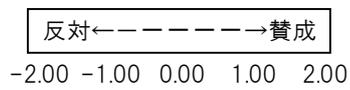
⑤夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである



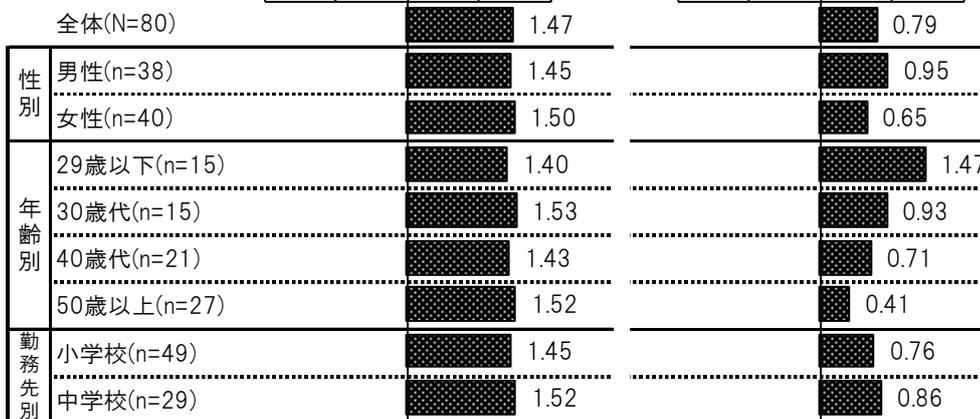
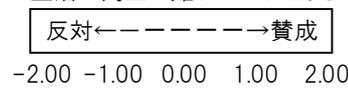
⑥結婚しても、必ずしも子どもを持つ必要はない



⑦男性は、もっと家事や育児、介護などの家庭生活に参加するべきである



⑧結婚しない人が増えたり晩婚化が進んだりしているのは、仕事と家庭生活の両立が難しいためである

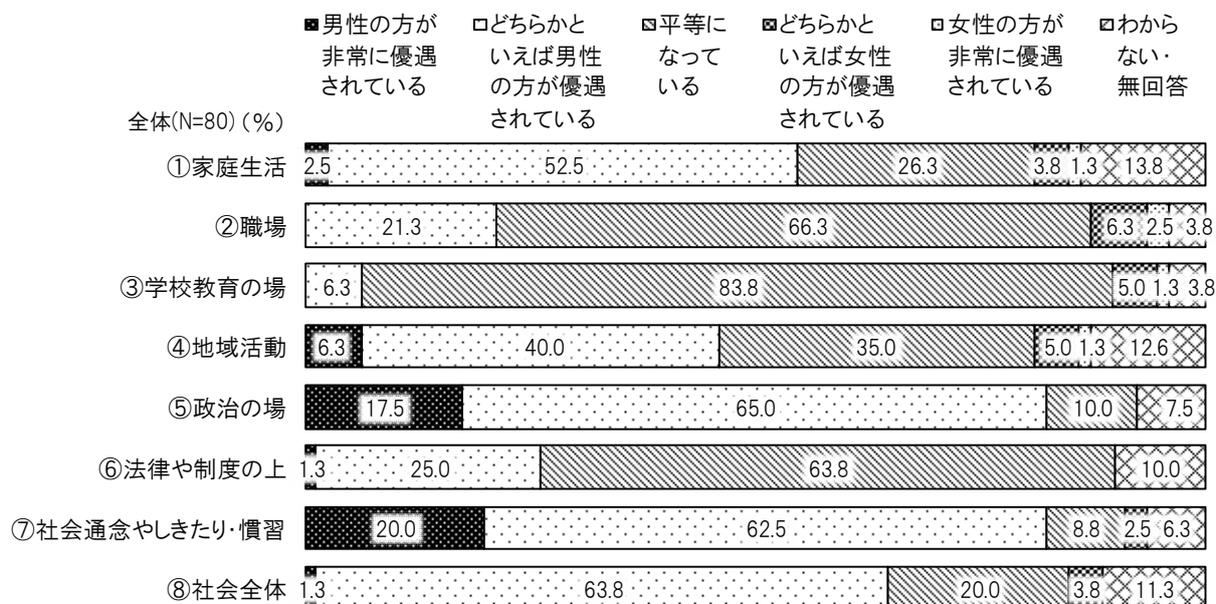


2 男女の平等意識

問5 あなたは、次の分野で、男女は平等になっていると思いますか。①から⑧までの項目についてお答えください。（○印1つずつ）

男女の地位の平等意識については、「③学校教育の場」を除く全ての分野において、『男性優遇』（「男性の方が非常に優遇されている」「どちらかといえば男性の方が優遇されている」の合計）の割合が『女性優遇』（「女性の方が非常に優遇されている」「どちらかといえば女性の方が優遇されている」の合計）の割合を上回っている。特に、「⑤政治の場」「⑦社会通念やしきたり・慣習」（各 82.5%）、「⑧社会全体」（65.1%）で『男性優遇』の割合が高くなっている。

また、「平等になっている」割合が高い分野としては、「③学校教育の場」（83.8%）、「②職場」（66.3%）、「⑥法律や制度の上」（63.8%）があげられる。



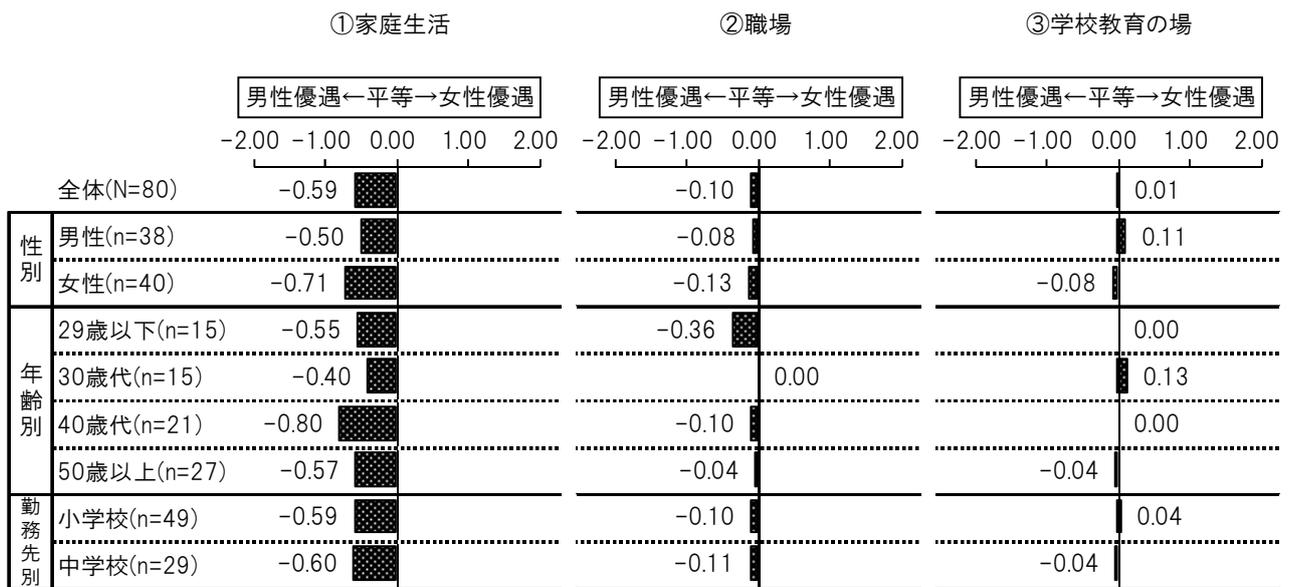
平均評定値による属性別傾向をみると、性別では、女性は男性に比べ「①家庭生活」「⑦社会通念やしきたり・慣習」で『男性優遇』意識が高くなっている。

年齢別では、『男性優遇』意識が高い分野として、29歳以下で「②職場」、40歳代で「①家庭生活」があげられ、『男性優遇』意識が低い分野として、29歳以下で「⑧社会全体」、30歳代で「⑥法律や制度の上」があげられる。

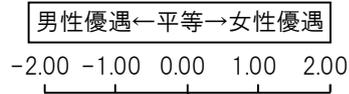
勤務先別にみると、中学校は「④地域活動」「⑧社会全体」などで『男性優遇』意識が高くなっている。

◆平均評定値による属性別傾向◆

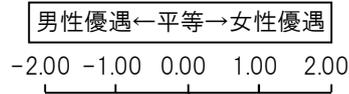
平均評定値とは、「男性の方が非常に優遇されている」に-2点、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」に-1点、「平等」に0点、「どちらかといえば女性の方が優遇されている」に+1点、「女性の方が非常に優遇されている」に+2点の係数を、それぞれの回答件数に乘じ、加重平均して算出した値で、-2に近いほど男性優遇、+2に近いほど女性優遇、0に近いほど平等を示す指標である。また、この数値はあくまでも「統計上の指標」であり、マイナス、プラスによって男女の優劣を判定するものではない。



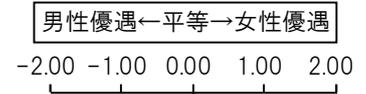
④地域活動



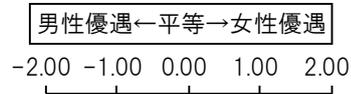
⑤政治の場



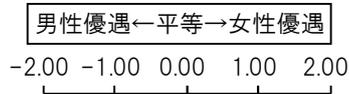
⑥法律や制度の上



⑦社会通念やしきたり・慣習



⑧社会全体

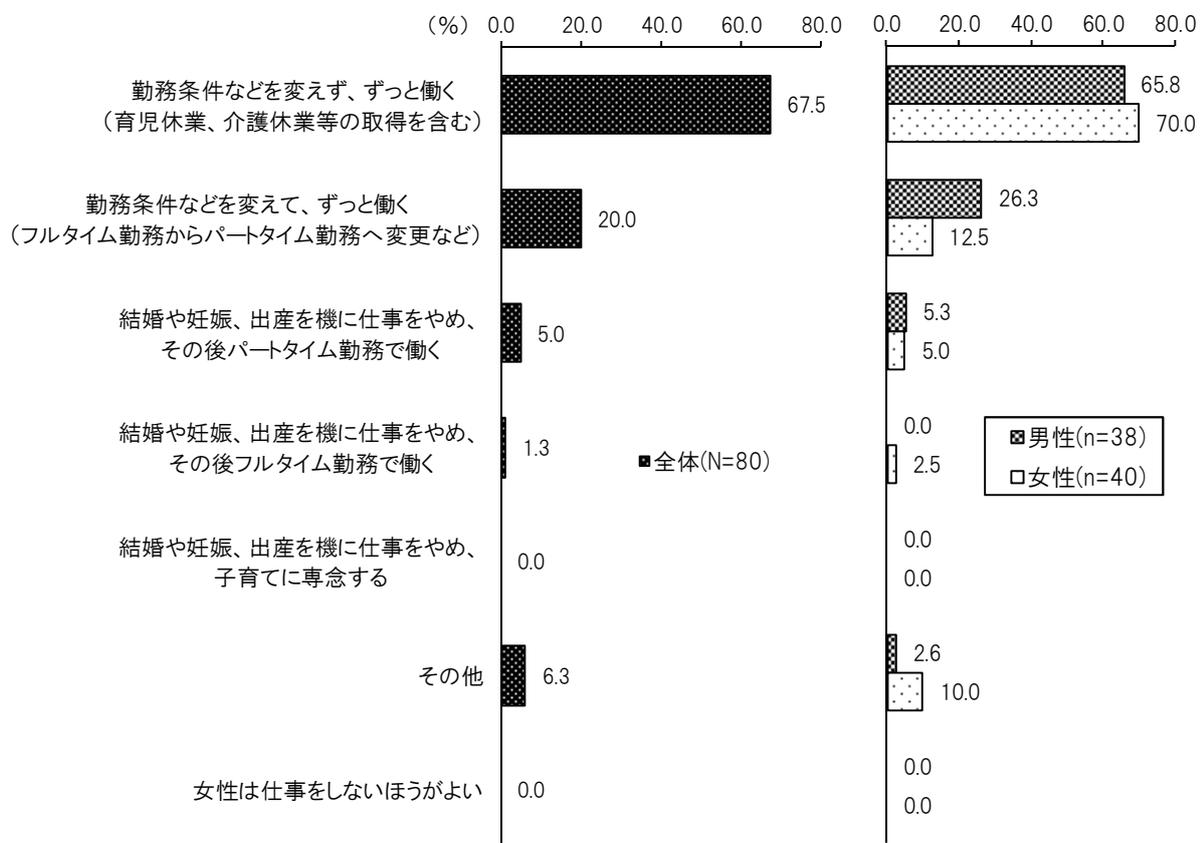


3 望ましい女性の働き方

問 11 あなたは、どのような女性の働き方が望ましいと思いますか。（○印1つ）

望ましい女性の働き方については、全体では「勤務条件などを変えず、ずっと働く（育児休業、介護休業等の取得を含む）」の割合が67.5%と突出して最も高く、次いで「勤務条件などを変えて、ずっと働く（フルタイム勤務からパートタイム勤務へ変更など）」（20.0%）が続いている。

性別では、男性は「勤務条件などを変えて、ずっと働く（フルタイム勤務からパートタイム勤務へ変更など）」が女性を大きく上回っている。



年齢別では、30歳代で「結婚や妊娠、出産を機に仕事をやめ、その後パートタイム勤務で働く」、40歳代で「勤務条件などを変えて、ずっと働く（フルタイム勤務からパートタイム勤務へ変更など）」がそれぞれ高くなっている。

勤務先別にみると、小学校は「勤務条件などを変えて、ずっと働く（フルタイム勤務からパートタイム勤務へ変更など）」、中学校では「勤務条件などを変えず、ずっと働く（育児休業、介護休業等の取得を含む）」がそれぞれ高くなっている。

(単位:%)

	勤務条件などを変えず、ずっと働く(育児休業、介護休業等を含む)	勤務条件などを変えず、ずっと働く(パートタイム勤務へ変更など)	仕事をやめ、その後パートタイムで働く	結婚や妊娠、出産を機に仕事をやめ、その後フルタイムで働く	結婚や妊娠、出産を機に仕事をやめ、その後パートタイムで働く	結婚や妊娠、出産を機に仕事をやめ、その後パートタイムで働く	その他
全体(N=80)	67.5	20.0	5.0	1.3	0.0	6.3	
【年齢別】							
29歳以下(n=15)	60.0	20.0	6.7	6.7	0.0	6.7	
30歳代(n=15)	66.7	13.3	13.3	0.0	0.0	6.7	
40歳代(n=21)	71.4	28.6	0.0	0.0	0.0	0.0	
50歳以上(n=27)	70.4	14.8	3.7	0.0	0.0	11.1	
【勤務先別】							
小学校(n=49)	63.3	24.5	6.1	2.0	0.0	4.1	
中学校(n=29)	75.9	10.3	3.4	0.0	0.0	10.3	

注:表中の「網掛け」は、各クロス集計(年齢別など)において最も高い割合を示している。

(例/年齢別の場合、最も割合が高い年齢層に網掛け。)

但し、回答割合が10%未満の項目、n数が10未満の項目及び「その他」については網掛けしていない。

また「無回答」は表記から省略している。(本報告書においては、以下同様)

【2】学校での男女平等について

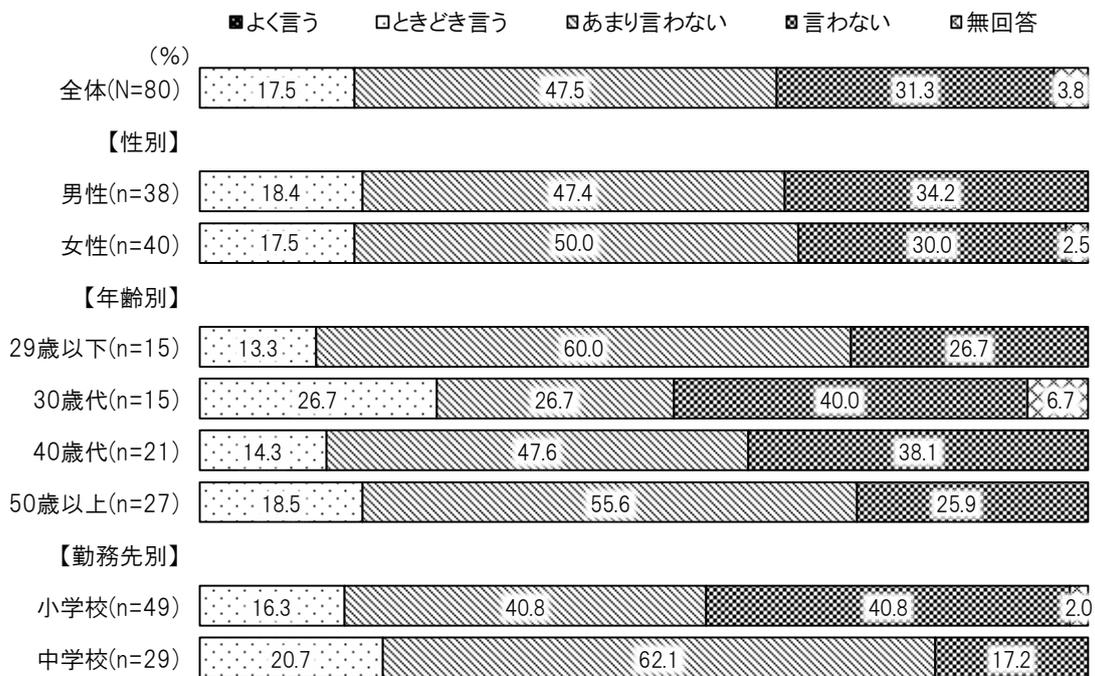
1 性別を意識した発言

問6 あなたは、児童や生徒に対して「男だから〇〇しなさい」や「女だから〇〇しなさい」と言うことがありますか。(〇印1つ)

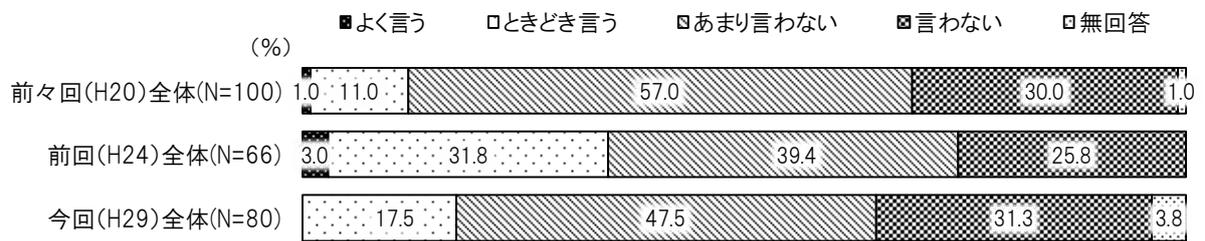
児童や生徒への性別を意識した発言については、「ときどき言う」が17.5%、「あまり言わない」が47.5%で、合計6割以上(65.0%)が『言ったことがある』と回答している。一方、約3割(31.3%)は「言わない」と回答している。

性別では大きな差はみられないが、年齢別では、30～40歳代で「言わない」割合が高くなっている。

勤務先別にみると、小学校は「言わない」割合が約4割を占め、中学校を大きく上回っている。



【参考／時系列推移】



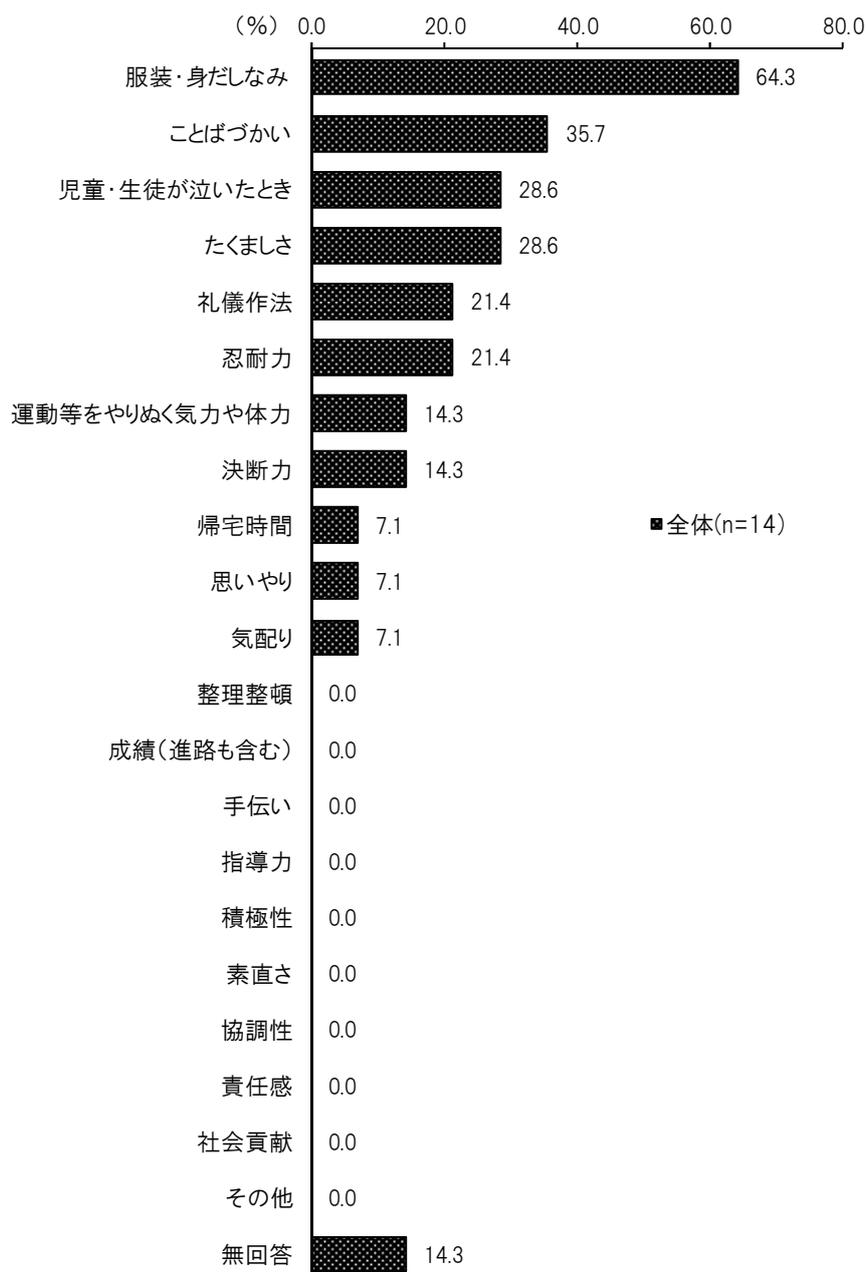
注:「あまり言わない」の前回、前々回調査結果は「したことがある」の結果を表記

2 性別を意識した発言の内容

【問6で「1」「2」と答えた方におたずねします】

問7 どのようなことについて言うことがありますか。(○印いくつでも)

児童や生徒への性別を意識した発言内容については、「服装・身だしなみ」が64.3%と突出して最も高く、次いで「ことばづかい」(35.7%)、「児童・生徒が泣いたとき」「たくましさ」(各28.6%)の順となっている。



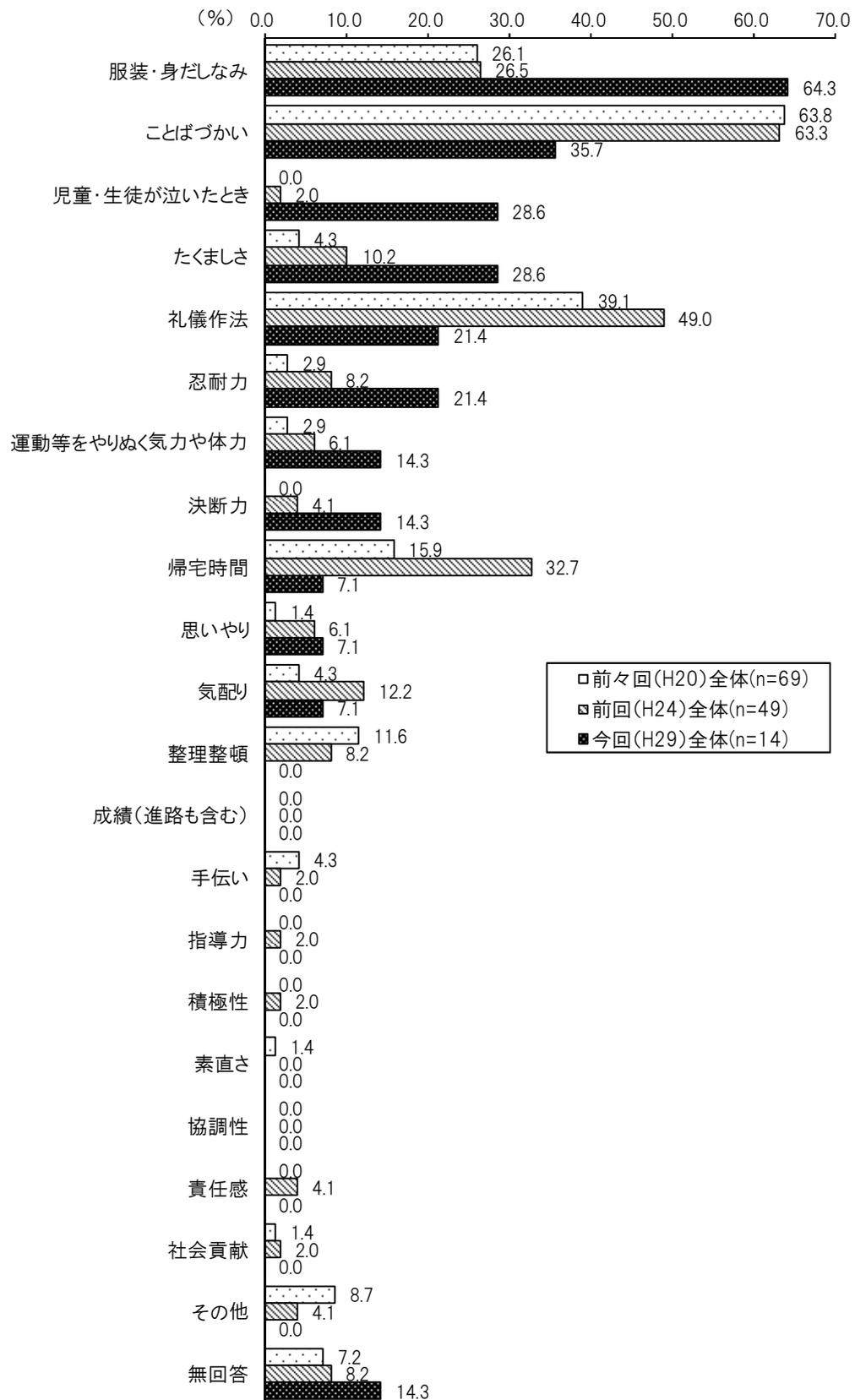
(単位:%)

	服装・身だしなみ	ことばづかい	児童・生徒が泣いたとき	たくましさ	礼儀作法	忍耐力	運動等をやりにくく 気力や体力	決断力	帰宅時間	思いやり	気配り
全体(n=14)	64.3	35.7	28.6	28.6	21.4	21.4	14.3	14.3	7.1	7.1	7.1
【性別】											
男性(n=7)	57.1	57.1	28.6	42.9	14.3	42.9	14.3	28.6	14.3	14.3	0.0
女性(n=7)	71.4	14.3	28.6	14.3	28.6	0.0	14.3	0.0	0.0	0.0	14.3
【年齢別】											
29歳以下(n=2)	100.0	50.0	50.0	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0
30歳代(n=4)	50.0	25.0	25.0	25.0	25.0	50.0	0.0	50.0	0.0	25.0	0.0
40歳代(n=3)	66.7	66.7	0.0	33.3	33.3	0.0	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0
50歳以上(n=5)	60.0	20.0	40.0	40.0	20.0	20.0	0.0	0.0	20.0	0.0	20.0
【勤務先別】											
小学校(n=8)	62.5	12.5	25.0	25.0	25.0	25.0	12.5	12.5	0.0	0.0	12.5
中学校(n=6)	66.7	66.7	33.3	33.3	16.7	16.7	16.7	16.7	16.7	16.7	0.0

注:クロス集計結果については、件数(n)が少ないため参考値として参照。

回答割合が0の項目は表記から省略している。

【参考／時系列推移】

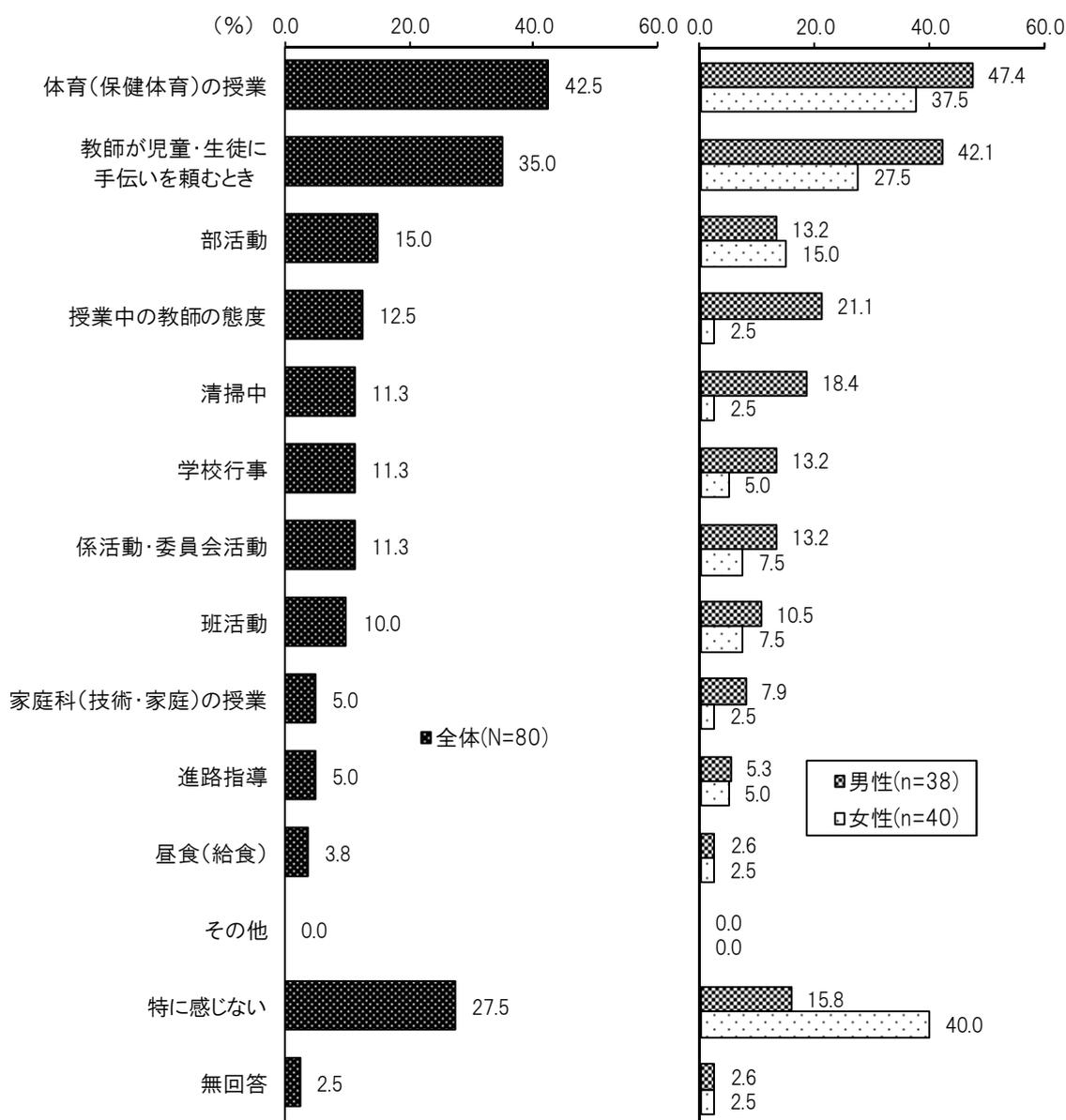


3 性別を意識した扱いの状況

問8 あなたの学校では、児童や生徒の性別を意識した扱いがされていると感じることがありますか。(○印いくつでも)

児童や生徒の性別を意識した扱いがされていると感じることについては、「体育(保健体育)の授業」が42.5%と最も高く、次いで「教師が児童・生徒に手伝いを頼むとき」(35.0%)、「部活動」(15.0%)、「授業中の教師の態度」(12.5%)の順となっている。

性別では、男性は「部活動」を除く全ての項目で女性を上回っており、特に「体育(保健体育)の授業」「教師が児童・生徒に手伝いを頼むとき」「授業中の教師の態度」「清掃中」「学校行事」などで高くなっている。また、女性は「特に感じない」の割合が4割を占め、男性を大きく上回っている。



年齢別では、40歳代で「係活動・委員会活動」、50歳以上で「授業中の教師の態度」の割合がそれぞれ高くなっており、若い年齢層ほど「特に感じない」の割合が増える傾向にある。

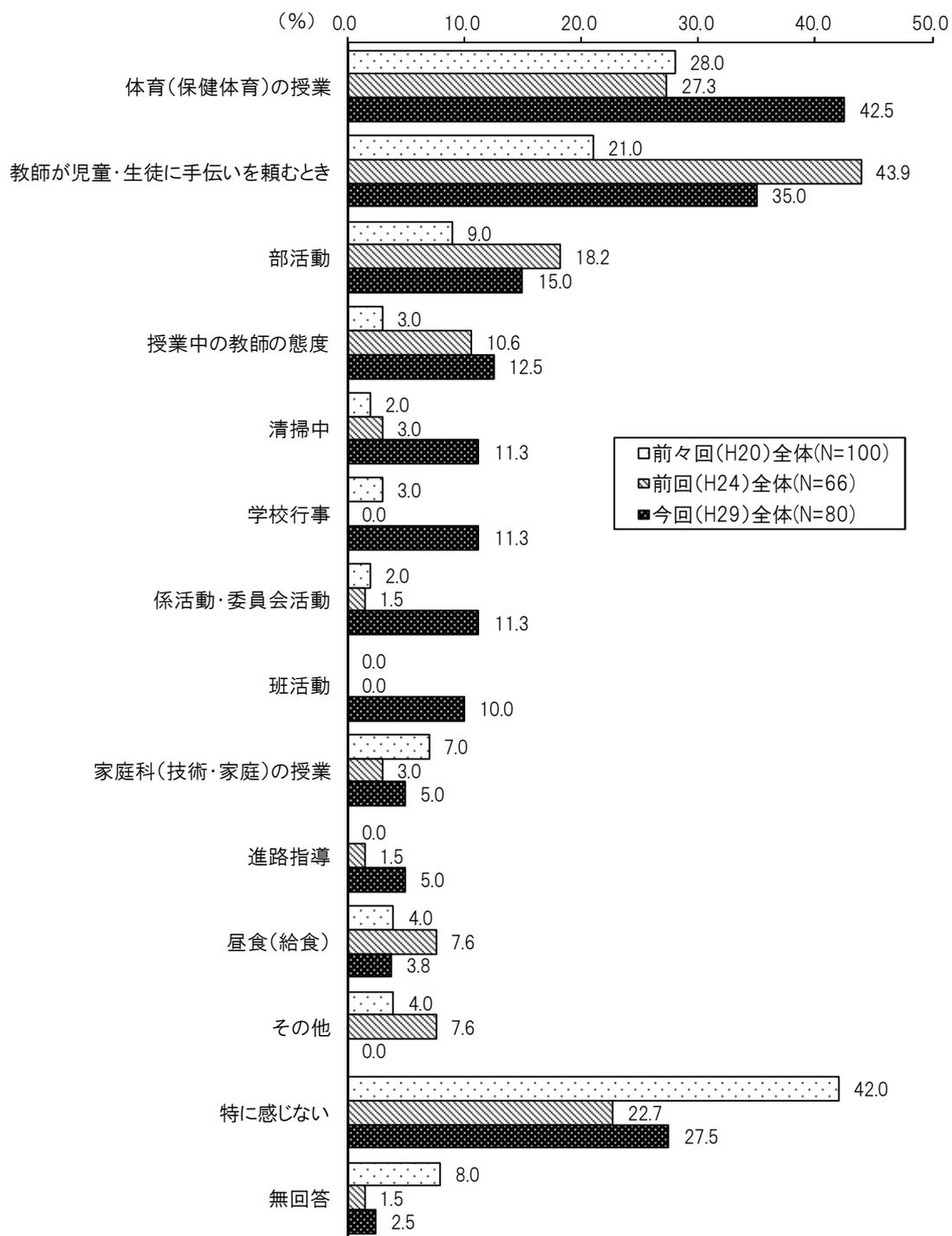
勤務先別にみると、中学校は「教師が児童・生徒に手伝いを頼むとき」「部活動」「学校行事」「係活動・委員会活動」「進路指導」など、小学校を上回る項目が多岐にわたる。

(単位:%)

	授業 体育 (保健 体育) の	手 伝 い が 児 童 ・ 生 徒 に	部 活 動	授 業 中 の 教 師 の 態 度	清 掃 中	学 校 行 事	係 活 動 ・ 委 員 会 活 動	班 活 動	家 庭 科 (技 術 ・ 家
全体(N=80)	42.5	35.0	15.0	12.5	11.3	11.3	11.3	10.0	5.0
【年齢別】									
29歳以下(n=15)	33.3	46.7	20.0	6.7	20.0	6.7	6.7	6.7	0.0
30歳代(n=15)	46.7	26.7	13.3	6.7	6.7	13.3	6.7	0.0	6.7
40歳代(n=21)	42.9	19.0	19.0	9.5	0.0	14.3	19.0	14.3	9.5
50歳以上(n=27)	44.4	44.4	7.4	18.5	14.8	3.7	7.4	11.1	3.7
【勤務先別】									
小学校(n=49)	51.0	24.5	6.1	10.2	10.2	2.0	6.1	10.2	8.2
中学校(n=29)	27.6	51.7	27.6	13.8	10.3	20.7	17.2	6.9	0.0

	進 路 指 導	昼 食 (給 食)	そ の 他	特 に 感 じ な い
全体(N=80)	5.0	3.8	0.0	27.5
【年齢別】				
29歳以下(n=15)	6.7	0.0	0.0	40.0
30歳代(n=15)	6.7	6.7	0.0	33.3
40歳代(n=21)	4.8	0.0	0.0	28.6
50歳以上(n=27)	3.7	3.7	0.0	18.5
【勤務先別】				
小学校(n=49)	2.0	2.0	0.0	32.7
中学校(n=29)	10.3	3.4	0.0	20.7

【参考／時系列推移】



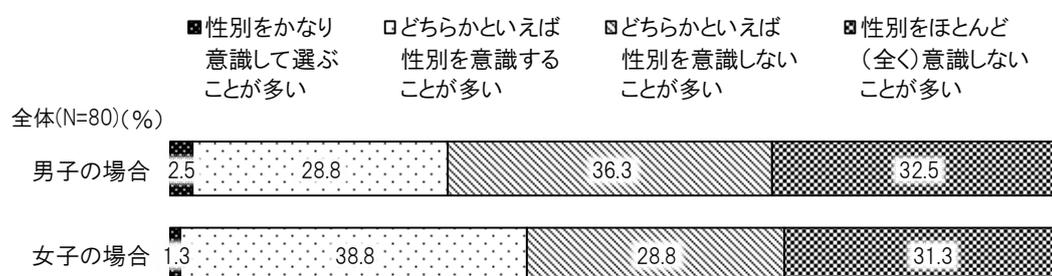
注:「特に感じない」の前回、前々回調査結果は、「違う扱いがあるとは感じない」の結果を表記

4 進路選択時の性別意識

問9 児童や生徒は、自身の進路を選ぶ時に、性別を意識していますか。男子の場合、女子の場合のそれぞれについてお答えください。（○印1つつつ）

児童や生徒が進路選択時に性別を意識することについては、「性別をかなり意識して選ぶことが多い」「どちらかといえば性別を意識することが多い」を合計した『意識する』と回答した割合が、男子で約3割（31.3%）、女子で約4割（40.1%）となっている。

一方、「どちらかといえば性別を意識しないことが多い」「性別をほとんど（全く）意識しないことが多い」の合計は、男子で約7割（68.8%）、女子で約6割（60.1%）となっている。

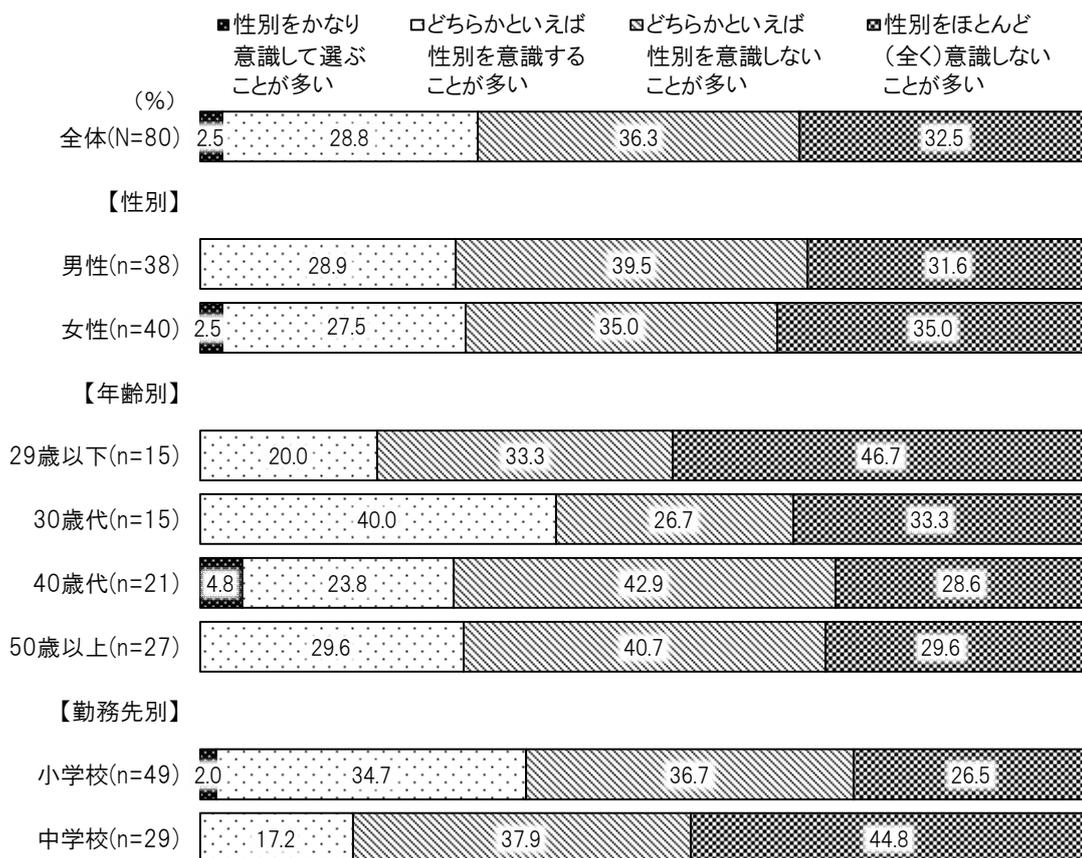


①男子の場合

男子の場合については、「性別をかなり意識して選ぶことが多い」が2.5%、「どちらかといえば性別を意識することが多い」が28.8%で、合計約3割（31.3%）が『意識する』と回答している。一方、「どちらかといえば性別を意識しないことが多い」（36.3%）、「性別をほとんど（全く）意識しないことが多い」（32.5%）の合計は約7割（68.8%）となっている。

性別では大きな差はみられないが、年齢別では、29歳以下で「性別をほとんど（全く）意識しないことが多い」の割合が他の年齢層を上回っている。

勤務先別にみると、小学校は中学校に比べ「どちらかといえば性別を意識することが多い」の割合が高く、中学校は「性別をほとんど（全く）意識しないことが多い」が小学校を大きく上回っている。



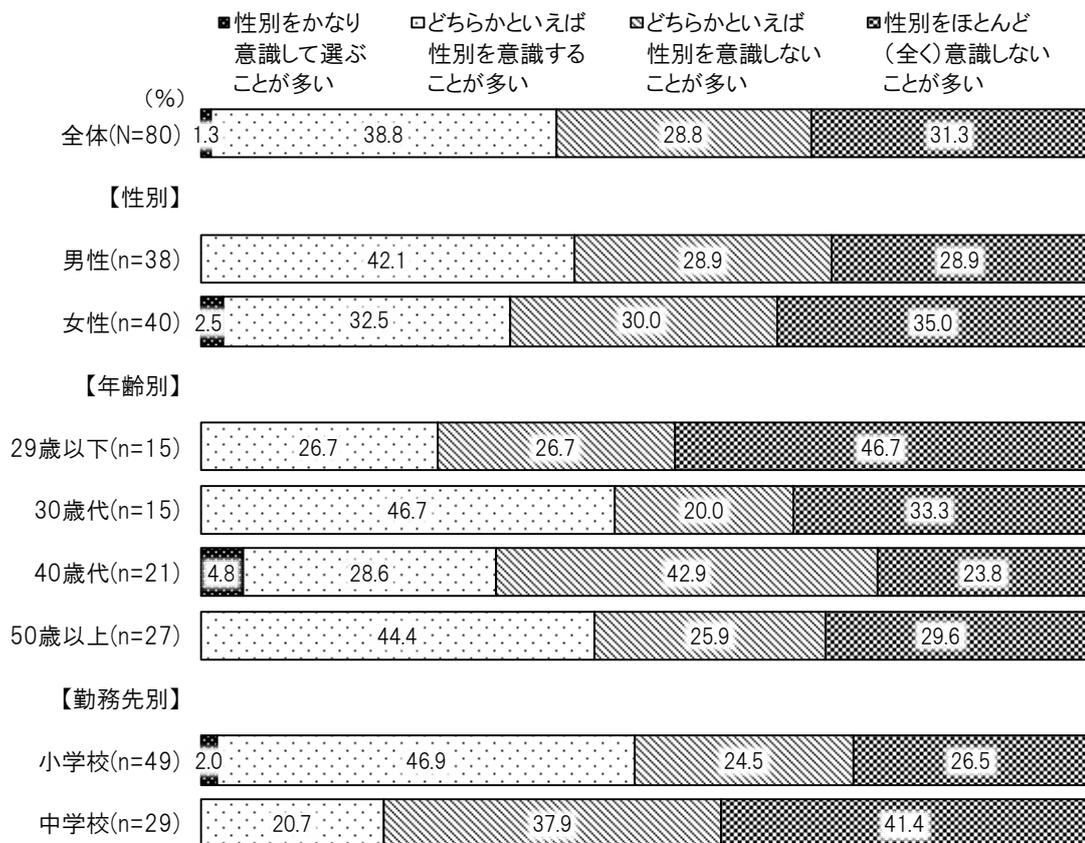
②女子の場合

女子の場合については、「性別をかなり意識して選ぶことが多い」が1.3%、「どちらかといえば性別を意識することが多い」が38.8%で、合計約4割(40.1%)が『意識する』と回答している。一方、「どちらかといえば性別を意識しないことが多い」(28.8%)、「性別をほとんど(全く)意識しないことが多い」(31.3%)の合計は約6割(60.1%)となっている。

性別では、男性は「どちらかといえば性別を意識することが多い」の割合が女性を上回っており、女性は男性に比べ「性別をほとんど(全く)意識しないことが多い」の割合が高くなっている。

年齢別では、29歳以下で「性別をほとんど(全く)意識しないことが多い」、40歳代で「どちらかといえば性別を意識しないことが多い」の割合がそれぞれ高くなっている。

勤務先別にみると、小学校は「どちらかといえば性別を意識することが多い」、中学校では「どちらかといえば性別を意識しないことが多い」「性別をほとんど(全く)意識しないことが多い」の割合がそれぞれ高くなっている。



5 進路指導時の性別意識

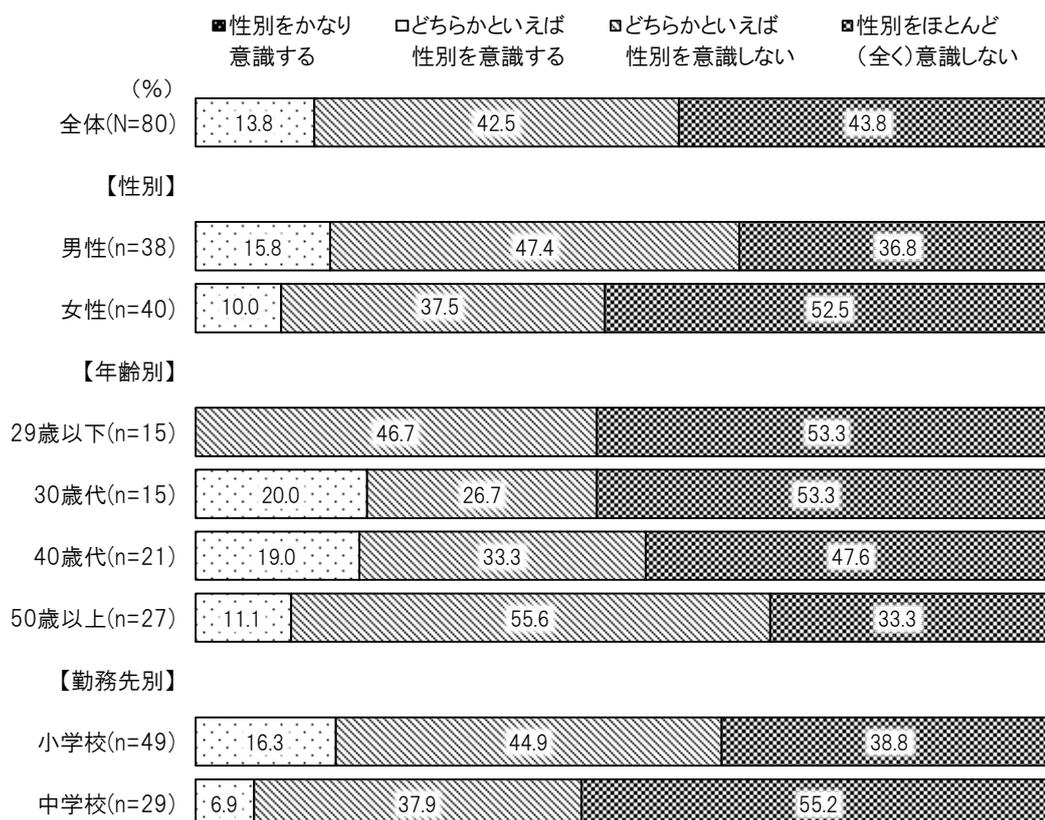
問 10 あなたは、児童や生徒の進路指導をする時に、性別を意識することがありますか。
(○印1つ)

進路指導時に性別を意識することについては、「どちらかといえば性別を意識しない」が42.5%、「性別をほとんど（全く）意識しない」が43.8%で、合計8割以上（86.3%）が『意識しない』と回答している。一方、「どちらかといえば性別を意識する」は13.8%であった。

性別では、女性は「性別をほとんど（全く）意識しない」が過半数を占め、男性を大きく上回っている。

年齢別では、若い年齢層ほど「性別をほとんど（全く）意識しない」の割合が増える傾向にある。

勤務先別にみると、中学校は「性別をほとんど（全く）意識しない」が小学校を大きく上回っている。



【3】男女平等教育について

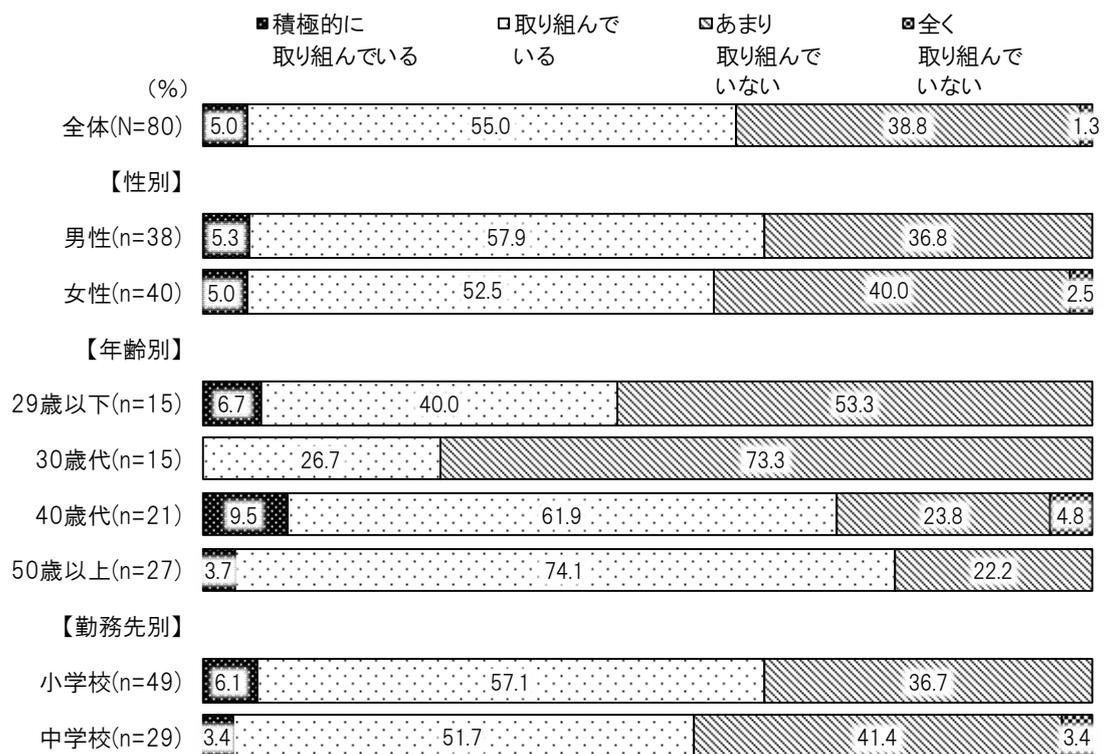
1 男女平等教育の取組状況

問 15 あなたの学校では、男女平等・男女共同参画に関する教育に、どの程度取り組んでいますか。(○印1つ)

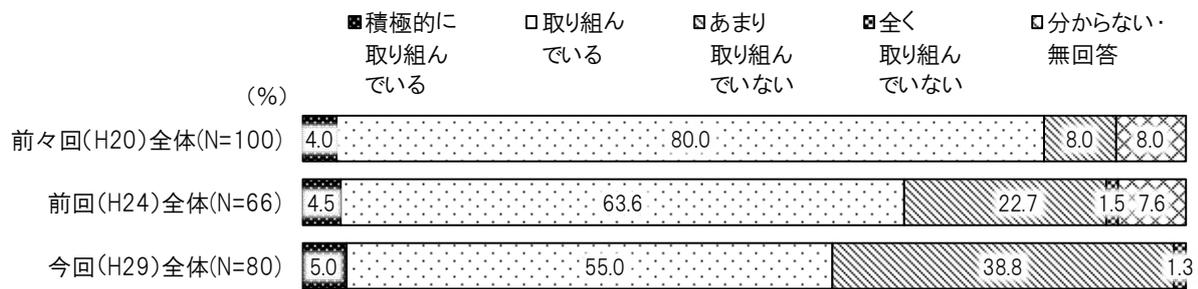
男女平等・男女共同参画に関する教育の取組状況については、「積極的に取り組んでいる」が5.0%、「取り組んでいる」が55.0%で、合計6割(60.0%)が『取り組んでいる』と回答している。一方、「あまり取り組んでいない」(38.8%)、「全く取り組んでいない」(1.3%)の合計は4割(40.1%)であった。

性別では大きな差はみられないが、年齢別では、30歳代の7割以上が「あまり取り組んでいない」と回答しており、他の年齢層を大きく上回っている。

勤務先別にみると、中学校で『取り組んでいない(合計)』割合が高くなっている。



【参考／時系列推移】

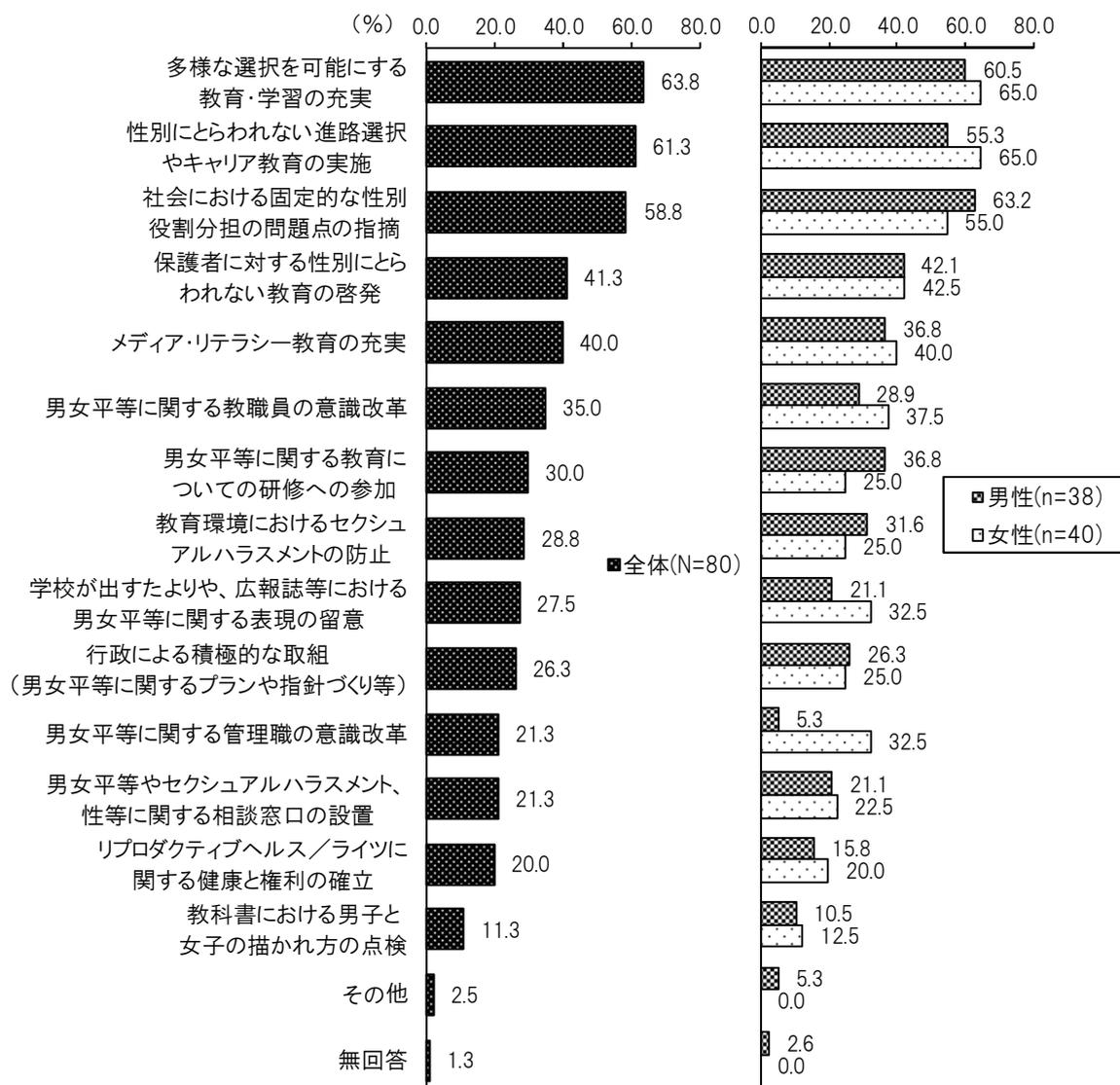


2 男女共同参画の実現をめざす取組

問 16 あなたは、男女共同参画の実現のために、学校でどのような取組が必要だと思いますか。(○印いくつでも)

男女共同参画の実現のために学校で必要な取組については、「多様な選択を可能にする教育・学習の充実」の割合が63.8%と最も高く、次いで「性別にとらわれない進路選択やキャリア教育の実施」(61.3%)、「社会における固定的な性別役割分担の問題点の指摘」(58.8%)、「保護者に対する性別にとらわれない教育の啓発」(41.3%)、「メディア・リテラシー教育の充実」(40.0%)の順となっている。

性別では、男性は女性に比べ「社会における固定的な性別役割分担の問題点の指摘」「男女平等に関する教育についての研修への参加」「教育環境におけるセクシュアルハラスメントの防止」の割合が高くなっている。一方、女性は「性別にとらわれない進路選択やキャリア教育の実施」「男女平等に関する教職員の意識改革」「学校が出すたよりや、広報誌等における男女平等に関する表現の留意」「男女平等に関する管理職の意識改革」などが男性を大きく上回っている。



年齢別では、年齢が上がるほど「保護者に対する性別にとらわれない教育の啓発」の割合が増える傾向にあり、50歳以上では「社会における固定的な性別役割分担の問題点の指摘」「教育環境におけるセクシュアルハラスメントの防止」「男女平等に関する管理職の意識改革」「教科書における男子と女子の描かれ方の点検」などが高くなっている。

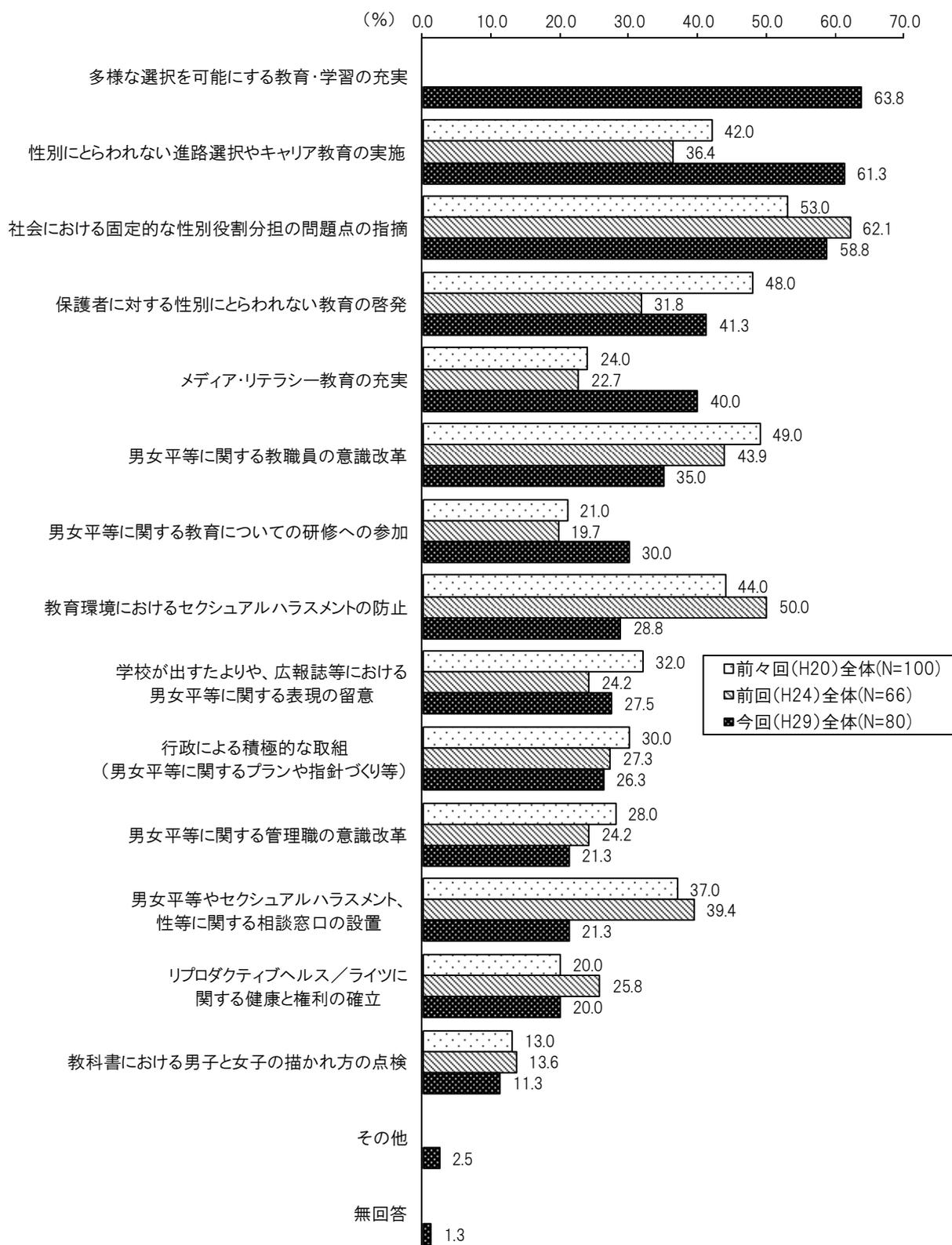
勤務先別にみると、小学校は中学校に比べ「行政による積極的な取組（男女平等に関するプランや指針づくり等）」などの割合が高くなっている。

(単位:%)

	多様な選択の充実	性別にとらわれない実践	社会における固定的な性別役割分担の問題点の指摘	保護者に対する性別にとらわれない教育の啓発	メディア・リテラシー教育の充実	男女平等に関する教職員の意識改革	男女平等に関する教育について	教育環境におけるセクシュアルハラスメントの防止	誌等における男女平等に関する留意	学校が提供するより、広報	行政による積極的な取組
全体(N=80)	63.8	61.3	58.8	41.3	40.0	35.0	30.0	28.8	27.5	26.3	
【年齢別】											
29歳以下(n=15)	66.7	40.0	33.3	13.3	20.0	33.3	13.3	20.0	33.3	6.7	
30歳代(n=15)	53.3	66.7	53.3	26.7	33.3	40.0	33.3	26.7	20.0	40.0	
40歳代(n=21)	71.4	57.1	52.4	47.6	52.4	28.6	33.3	14.3	23.8	23.8	
50歳以上(n=27)	59.3	70.4	81.5	63.0	40.7	33.3	37.0	44.4	29.6	29.6	
【勤務先別】											
小学校(n=49)	63.3	63.3	55.1	46.9	38.8	36.7	34.7	24.5	26.5	32.7	
中学校(n=29)	62.1	55.2	65.5	34.5	37.9	27.6	24.1	34.5	27.6	13.8	

	男女平等に関する管理職の意識改革	男女平等やセクシュアルハラスメント等の設置	リップログに関する健康と権利の確立	教科書における男子と女子の描かれ方の点検	その他
全体(N=80)	21.3	21.3	20.0	11.3	2.5
【年齢別】					
29歳以下(n=15)	13.3	20.0	13.3	13.3	0.0
30歳代(n=15)	13.3	13.3	26.7	6.7	13.3
40歳代(n=21)	19.0	28.6	19.0	0.0	0.0
50歳以上(n=27)	25.9	22.2	14.8	22.2	0.0
【勤務先別】					
小学校(n=49)	22.4	20.4	18.4	14.3	4.1
中学校(n=29)	13.8	24.1	17.2	6.9	0.0

【参考／時系列推移】



注1:「多様な選択を可能にする教育・学習の充実」は今回新規項目

注2:「性別にとらわれない進路選択やキャリア教育の実施」の前回、前々回調査結果は「性別にとらわれない進路指導の実施」の結果を表記

注3:「男女平等に関する教育についての研修への参加」の前回、前々回調査結果は「男女平等に関する教育についての校外研修への参加・派遣」の結果を表記

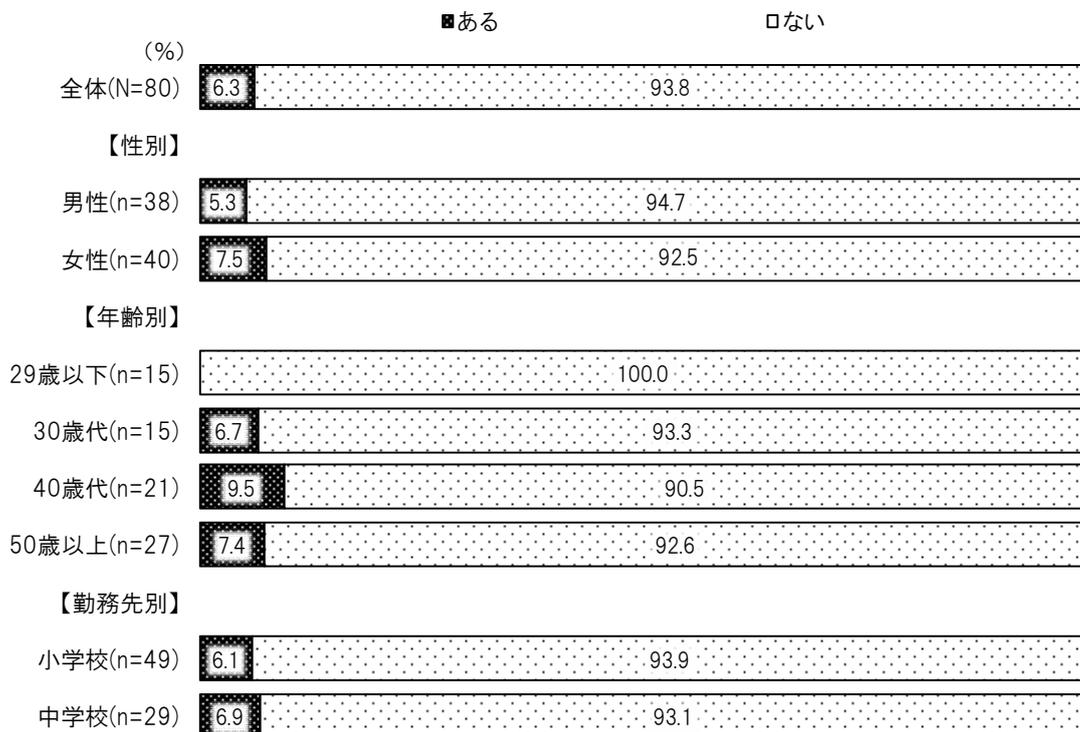
注4:「リプロダクティブヘルス／ライツに関する健康と権利の確立」の前回、前々回調査結果は「性と生殖に関する健康と権利の確立」の結果を表記

【4】学校でのデートDVについて

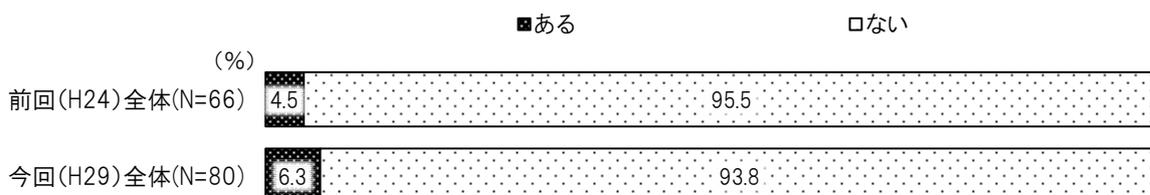
1 デートDVの認知状況

問 13 あなたは、児童や生徒の「デートDV」を見聞きしたことがありますか。
(○印1つ)

児童や生徒のデートDVを見聞きしたことについては、「ある」は6.3%であった。
性別、勤務先別では大きな差はみられないが、年齢別では30歳以上で「ある」がみられるが、いずれも1割未満となっている。



【参考／時系列推移】



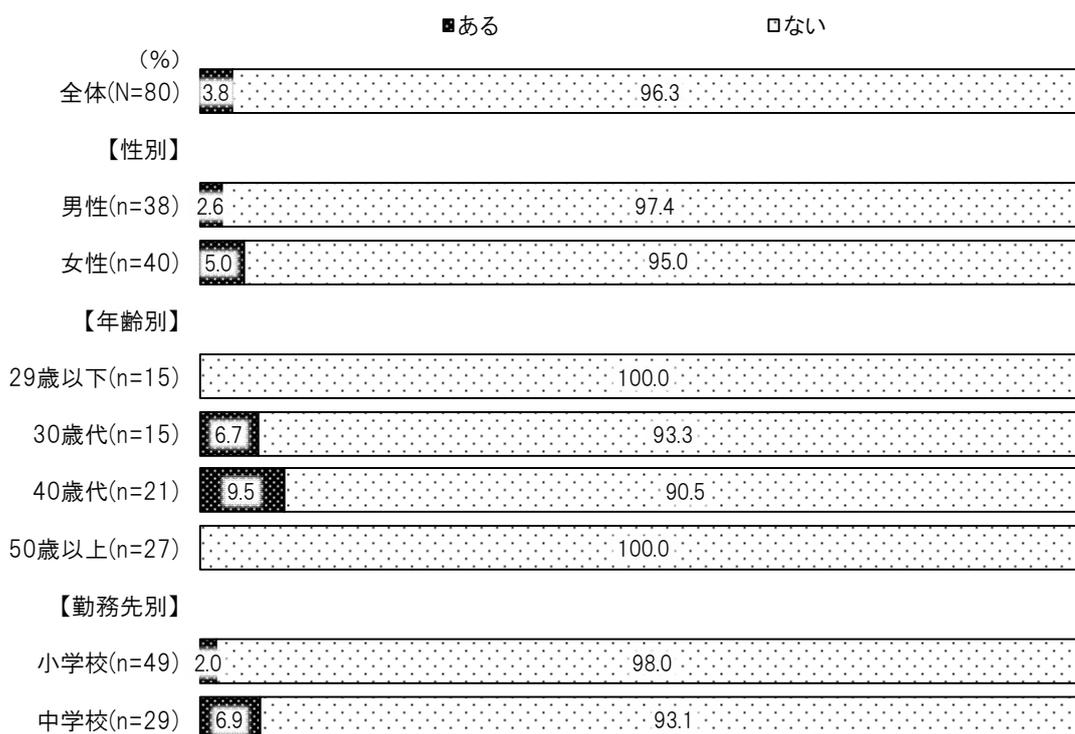
2 相談の状況

問 14 あなたは、児童や生徒から「デートDV」について相談を受けたことはありますか。(○印1つ)

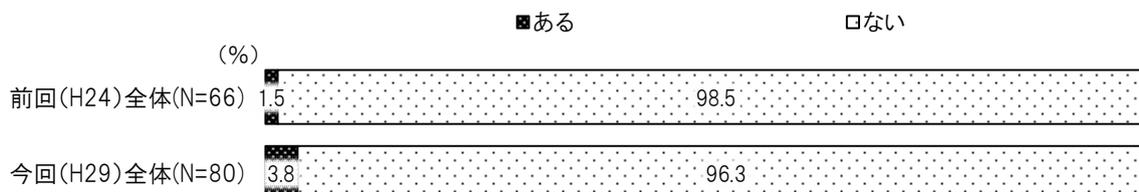
児童や生徒からのデートDVの相談については、「ある」は3.8%であった。

「ある」の割合は、性別では女性が男性をやや上回っており、年齢別では、30歳代と40歳代で「ある」がみられるが、いずれも1割未満となっている。

勤務先別にみると、小学校、中学校で「ある」の回答がみられるが、いずれもその割合は低い。



【参考／時系列推移】

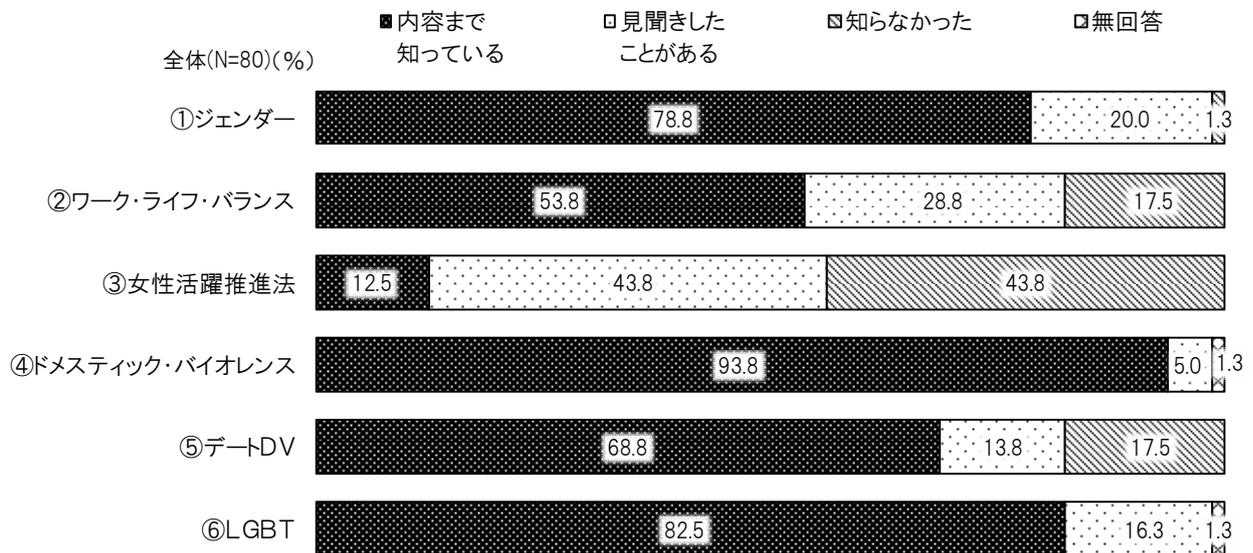


【5】男女共同参画社会の形成について

1 用語の認知度

問 12 あなたは、次の用語の意味を知っていますか。（○印1つずつ）

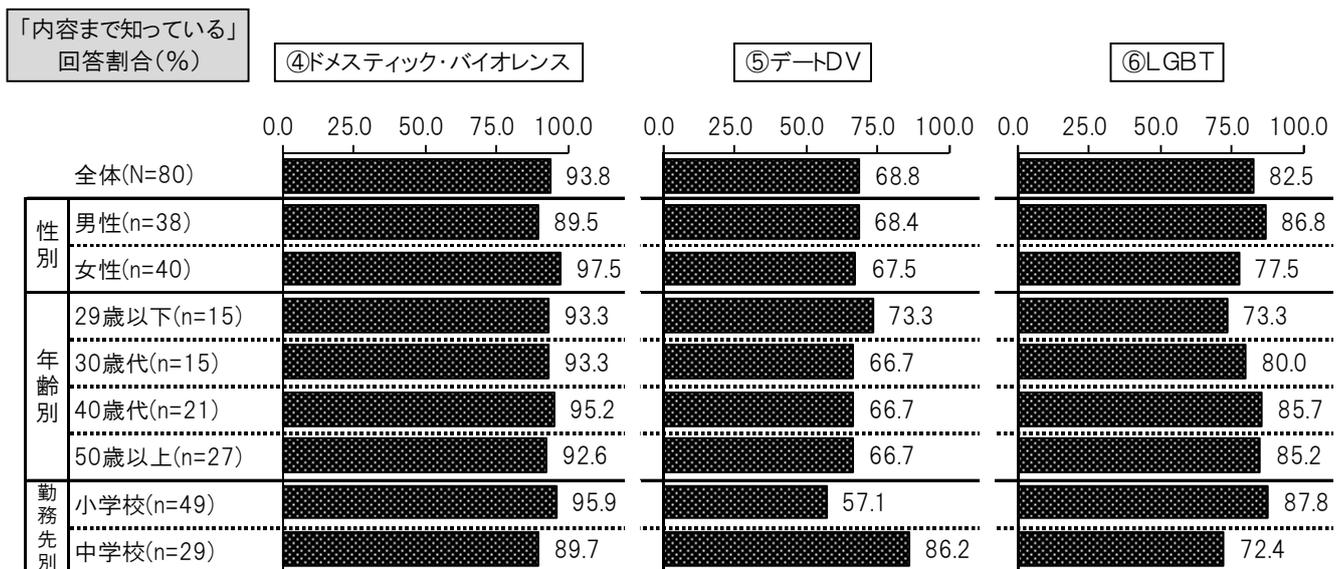
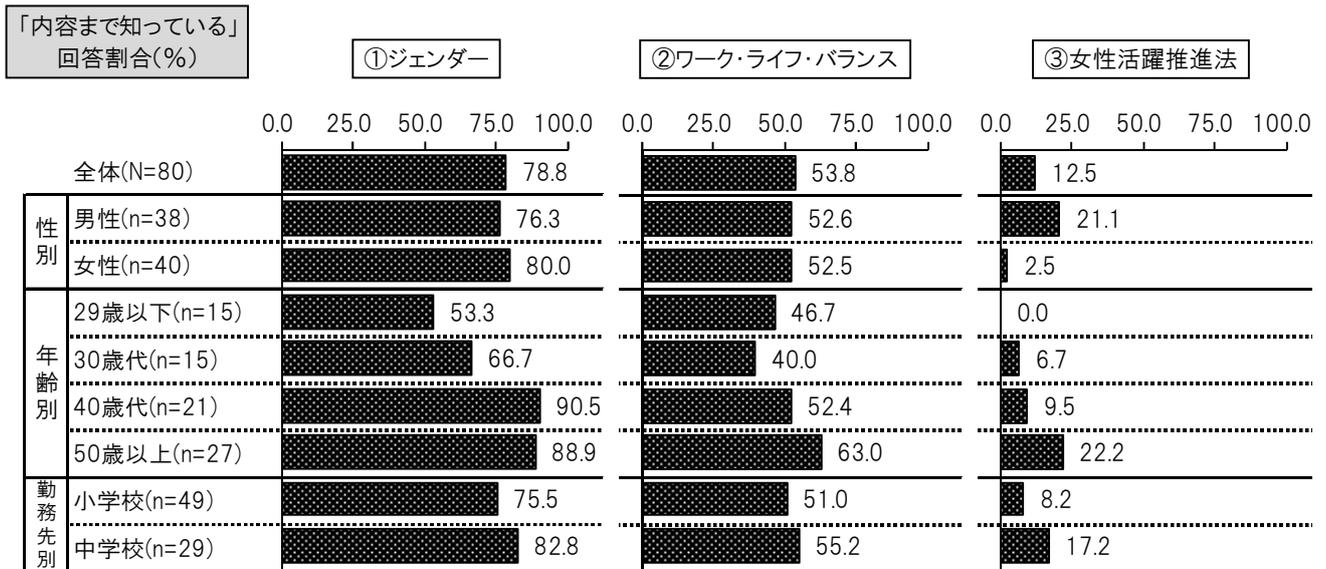
男女共同参画に関する施策などの認知度については、「内容まで知っている」の割合が高い順に、「④ドメスティック・バイオレンス」（93.8%）、「⑥LGBT」（82.5%）、「①ジェンダー」（78.8%）となっている。一方、「知らなかった」の割合については、「③女性活躍推進法」（43.8%）、「②ワーク・ライフ・バランス」「⑤デートDV」（各17.5%）が高くなっている。



「内容まで知っている」を属性別にみると、性別では、男性は「③女性活躍推進法」「⑥LGBT」の割合が女性を上回っており、女性は男性に比べ「④ドメスティック・バイオレンス」の割合が高くなっている。

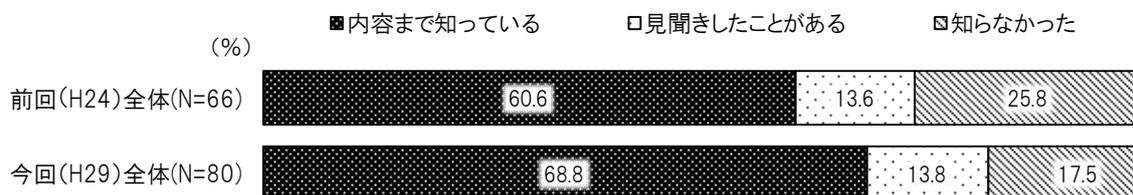
年齢別では、おおむね年齢が上がるほど「①ジェンダー」「②ワーク・ライフ・バランス」「③女性活躍推進法」の割合が増える傾向にある。

勤務先別にみると、小学校は「⑥LGBT」、中学校では「③女性活躍推進法」「⑤デートDV」などの割合がそれぞれ高くなっている。



【参考／時系列推移】

⑤デートDV



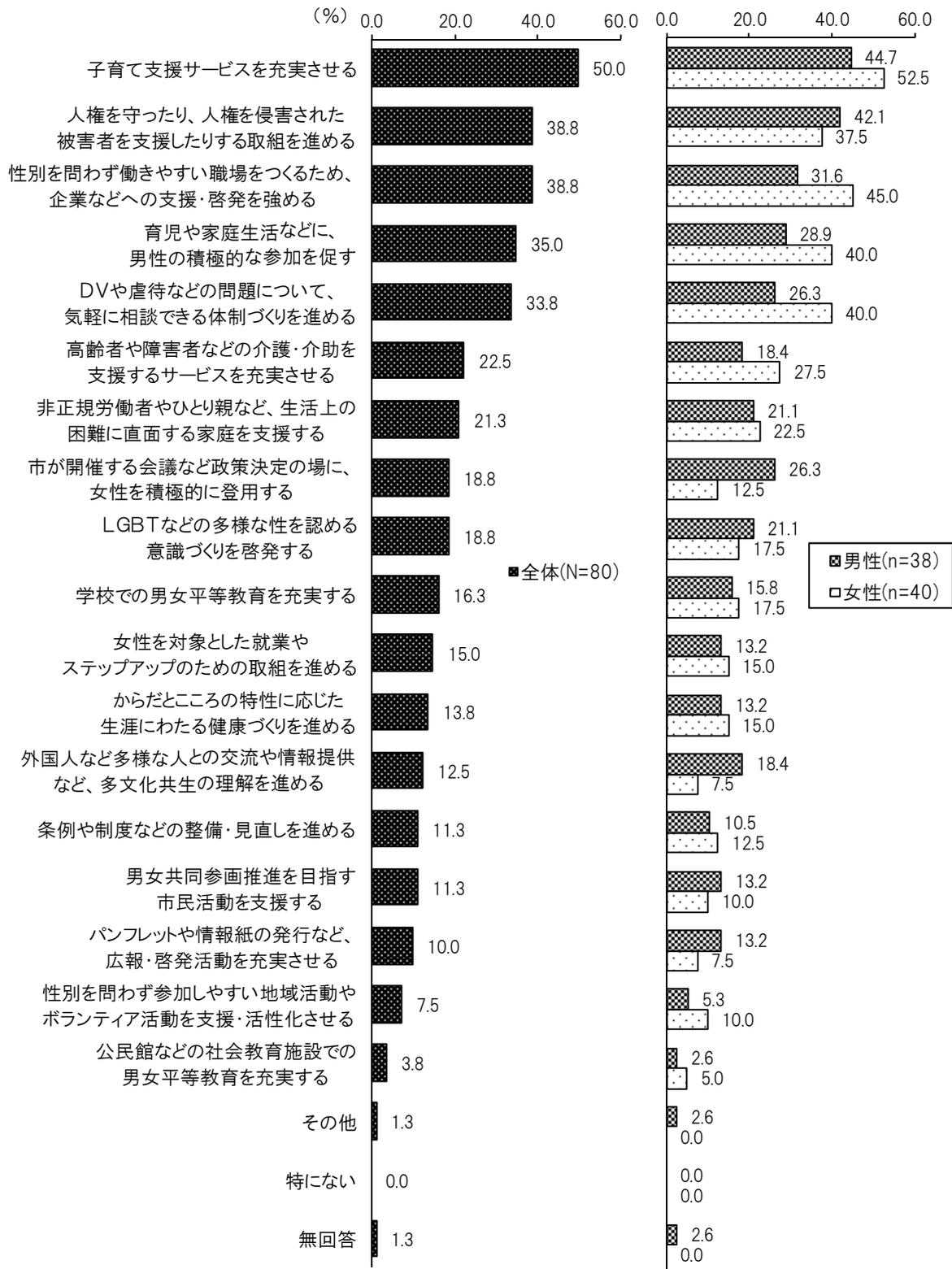
注:「内容まで知っている」の前回調査結果は、「意味を知っていた」の結果を表記
「見聞きしたことがある」の前回調査結果は、「言葉は聞いたことがある」の結果を表記

2 さぬき市に期待する取組

問 17 あなたは、男女共同参画を積極的に進めるために、さぬき市にどのようなことを期待しますか。(○印3つまで)

さぬき市に期待することについては、「子育て支援サービスを充実させる」の割合が50.0%と最も高く、次いで「人権を守ったり、人権を侵害された被害者を支援したりする取組を進める」「性別を問わず働きやすい職場をつくるため、企業などへの支援・啓発を強める」(各38.8%)、「育児や家庭生活などに、男性の積極的な参加を促す」(35.0%)、「DVや虐待などの問題について、気軽に相談できる体制づくりを進める」(33.8%)の順となっている。

性別では、男性は「市が開催する会議など政策決定の場に、女性を積極的に登用する」「外国人など多様な人との交流や情報提供など、多文化共生の理解を進める」などが女性を大きく上回っている。一方、女性は「子育て支援サービスを充実させる」「性別を問わず働きやすい職場をつくるため、企業などへの支援・啓発を強める」「育児や家庭生活などに、男性の積極的な参加を促す」「DVや虐待などの問題について、気軽に相談できる体制づくりを進める」「高齢者や障害者などの介護・介助を支援するサービスを充実させる」などが男性を大きく上回っている。



年齢別では、おおむね若い年齢層ほど「育児や家庭生活などに、男性の積極的な参加を促す」、年齢が上がるほど「高齢者や障害者などの介護・介助を支援するサービスを充実させる」の割合が増える傾向にある。また、29歳以下で「非正規労働者やひとり親など、生活上の困難に直面する家庭を支援する」、40歳代で「性別を問わず働きやすい職場をつくるため、企業などへの支援・啓発を強める」の割合がそれぞれ高くなっている。

勤務先別にみると、中学校は「DVや虐待などの問題について、気軽に相談できる体制づくりを進める」が小学校を大きく上回っている。

(単位:%)

	実子育を支援する	しんりさすれを取組を進め	人権を守つたり、被る者を支援	めなへの支援助・啓発を強	職場のつくり直し	性別を問わず働きやすい	す男児の積極的な参加を促	るついで、虐待などの問題に	DVや虐待などの問題に	びスや介助を充実させる	高年齢者や障害者などの介	面する家庭生活の困難に直	非正規労働者やひとり親	極的に活用する	策的決定の場を、女性など	市が開催する会議などを積	発する	を認める意識づくりに啓	LGBTなどの多様な性	充実に男女平等教育を
全体(N=80)	50.0	38.8	38.8	35.0	33.8	22.5	21.3	18.8	18.8	16.3										
【年齢別】																				
29歳以下(n=15)	46.7	26.7	13.3	46.7	33.3	13.3	33.3	20.0	26.7	20.0										
30歳代(n=15)	53.3	40.0	20.0	40.0	26.7	13.3	20.0	13.3	20.0	13.3										
40歳代(n=21)	47.6	42.9	66.7	28.6	28.6	23.8	14.3	14.3	23.8	14.3										
50歳以上(n=27)	48.1	44.4	40.7	29.6	40.7	33.3	22.2	25.9	11.1	18.5										
【勤務先別】																				
小学校(n=49)	49.0	38.8	40.8	32.7	26.5	24.5	18.4	22.4	18.4	20.4										
中学校(n=29)	48.3	41.4	34.5	37.9	44.8	20.7	27.6	13.8	20.7	10.3										

	取組を進める	女性を対象とした就業や	づくりに進める	からだのこわると健康	文化交流や情報提供など	外国や多様な人との	見直しを進める	条例や制度などの整備	す男女共同参画推進を指	動を充実させる	発行など、広報・啓発活	せる	ア活を支援・活性化	性地域活動を	実する	設の男女平等教育を充	公館などの社会教育を施	そ	他
全体(N=80)	15.0	13.8	12.5	11.3	11.3	10.0	7.5	3.8	1.3										
【年齢別】																			
29歳以下(n=15)	20.0	13.3	13.3	13.3	6.7	0.0	13.3	0.0	0.0										
30歳代(n=15)	13.3	13.3	0.0	13.3	6.7	6.7	0.0	0.0	6.7										
40歳代(n=21)	9.5	19.0	9.5	14.3	14.3	14.3	4.8	9.5	0.0										
50歳以上(n=27)	14.8	11.1	22.2	7.4	14.8	14.8	11.1	3.7	0.0										
【勤務先別】																			
小学校(n=49)	10.2	18.4	10.2	10.2	14.3	12.2	10.2	6.1	2.0										
中学校(n=29)	20.7	6.9	17.2	13.8	6.9	6.9	3.4	0.0	0.0										

【6】その他

1 自由意見・要望

問 18 男女共同参画についてのご意見・ご要望などがありましたら、自由にお書きください。

男女共同参画社会になるために必要と思うことなどを自由記述方式（フリーアンサー）で尋ねたところ、以下のような意見がみられた。なお、自由記述については、誤字等の修正を除き、全て原文に基づいて性別・年齢別に掲載している。

男性 29 歳以下

- ・男性や女性に関係なく、仕事と育児を両立できる社会になれば、子どもにとっても良い環境が整うのではないかなと思います。

女性 29 歳以下

- ・教職の現場では、あまり男女で不平等な立場になっていると感じたことはありません。

男性 30 歳代

- ・妻からは、子育てのストレスと仕事で自分の力を発揮できる環境がほしいということを経験しているが、毎日のように聞くが、自分自身に時間の余裕がなく、家庭内で男女共同参画を支えるような役割を果たせていない。行政サービスが、徐々に充実しているようには感じるが、一方で働く者にとっては勤務状況が厳しくなっていて不安しかない。勤務時間内に終わるといふ勤務日はほとんどないのが現状。早く帰るように管理職に口頭で言われたとしても帰れない。帰るとその仕事が後回しになるだけ。ひいてはそれが家庭負担及び女性負担となっている。
- ・学校現場で、長時間労働の軽減や、男性の育児休暇の取得など男性も女性も家庭と仕事が両立できるような働き方に変えていく必要がある。行政の指導でまずは公務員がそう変わっていかなければいけない。変化には反発がつきものだが、思い切った取組をしないと変わらない。
- ・男女が不平等な時代を生きてきた方々に、正確な情報を伝える機会を作ってほしい。男女共に、仕事と家庭の両立ができる社会になってほしい。特に、子育てにも十分な時間が取れるような働き方になればよいと感じている。

女性 40 歳代

- ・男だから、女だからと言わずに人として正しい判断をし、正しい行いをしていきたい。人それぞれに特性があり、その人その人の持つよさを生かして、助け合って生きていける思いやりのある社会にもっともってほしい。人は劣等感からか、他人を誹謗中傷することもある。本当に大切なことは何かをもっとゆっくり考え、語り合える時間があればいいのになと思う。ありがとうや感謝の気持ちにあふれ、お互いの幸せを願い、喜び合えたらいいと思う。

男性 50 歳代

- ・結婚や出産後も、女性が働ける環境づくりを充実させることが急務だと思います。（子育て支援、介護支援等）
- ・さぬき市役所を訪ねても、各課長や部長はほとんど男性である。女性の管理職を育てて行こうとする姿勢がもっと必要ではないでしょうか。

女性 50 歳代

- ・男女とも活躍できる場があれば良いと思うが、男性・女性の特性は活かしてほしい。また女性が結婚後、育児をしながら仕事を続けるためには家族の協力が大切である。家族の協力が得られない時には、行政で子育て支援や家事支援サービスを充実させてほしい。
- ・ひとり親家庭など、生徒の家庭の状態は悪化している。少しでも早く状況をつかんで、誰もが平等に幸せな生活を送ってほしい。学校や行政が力を合わせて、子どもたちが安心して毎日楽しい生活を考えていければいいと思います。
- ・「大人」の意識（本音）が確かめられた上で進めるとよい。子どもたちや若者は、男女平等が当たり前になっているのではないかと思う。自然に個性を認められる学校や社会であるとよい。

性別年齢不明

- ・出産・子育て世代への支援を拡充してほしいです。子育てをしながら女性が働き続けるには、たくさんの壁があると感じています。家族や親戚の助けを得やすい人でも大変な困難があります。ましてや助けを得にくい人や得られない人などは、行政からの更なる支援が必要だと感じています。どうぞよろしくお願いします。

第2次さぬき市男女共同参画プラン（後期計画） 教職員アンケート

～ご協力のお願～

さぬき市では、「自分らしく、ともにいきいきと生きることができるまち」の実現に向けて取り組んでいます。

このアンケートは、教職員の皆様の男女の役割や平等に関する意識やご意見等をお伺いし、「第2次さぬき市男女共同参画プラン（後期計画）」策定の基礎資料とすることを目的に、市内小・中学校の教職員 80 人に回答をお願いするものです。

回答は、すべて統計的に処理しますので、プライバシーの保護はもとより、本調査の目的以外に利用することは一切ありません。

お忙しいところ誠にお手数をおかけしますが、調査の趣旨をご理解のうえ、回答にご協力くださいますようお願い申し上げます。

平成 29 年 8 月

さぬき市長 大山 茂樹

記入にあたってのお願い

- 1 この調査票に黒の鉛筆またはボールペンで記入してください。
- 2 回答は、あてはまる番号を○で囲んでください。また、各設問文にある（○印1つ）（○印いくつでも）などの指示に従って記入してください。

お問い合わせ先

さぬき市総務部秘書広報課 男女共同参画・国際交流推進室
〒769-2195 さぬき市志度 5385 番地 8
電話 (087) 894-1660 メール danjokokusai@city.sanuki.lg.jp

記入が終わりましたら、返信用封筒に入れて、学校ごとに取りまとめのうえ
9月8日（金）までに総務部秘書広報課 男女共同参画・国際交流推進室まで
逡送で提出してください。

問1 あなたの性別をお答えください。(○印1つ)

1 男性	2 女性
------	------

問2 あなたの年齢をお答えください。(○印1つ)

1 18～29歳	2 30～39歳	3 40～49歳
4 50～59歳	5 60歳以上	

問3 あなたが勤務しているのはどちらですか。(○印1つ)

1 小学校	2 中学校
-------	-------

問4 あなたは、次の①から⑧までの項目について、どのように思いますか。(○印1つずつ)

	賛成	賛成 どちらかといえば	反対 どちらかといえば	反対
①「男は男らしく、女は女らしく」という価値観や考え方	1	2	3	4
②家事や育児は女性の仕事である	1	2	3	4
③女性は男性に従うべきだ	1	2	3	4
④結婚は個人の自由であるから、結婚してもしなくてもどちらでもよい	1	2	3	4
⑤夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである (「男は仕事、女は家庭」という考え方)	1	2	3	4
⑥結婚しても、必ずしも子どもを持つ必要はない	1	2	3	4
⑦男性は、もっと家事や育児、介護などの家庭生活に参加するべきである	1	2	3	4
⑧結婚しない人が増えたり晩婚化が進んだりしているのは、 仕事と家庭生活の両立が難しいためである	1	2	3	4

問5 あなたは、次の分野で、男女は平等になっていると思いますか。①から⑧までの項目についてお答えください。(○印1つずつ)

	男性の方が 非常に優遇されている	どちらかといえば男性 の方が優遇されている	平等になっている	どちらかといえば女性 の方が優遇されている	女性の方が 非常に優遇されている	わからない
①家庭生活では	1	2	3	4	5	6
②職場では	1	2	3	4	5	6
③学校教育の場では	1	2	3	4	5	6
④地域活動では	1	2	3	4	5	6
⑤政治の場では	1	2	3	4	5	6
⑥法律や制度の上では	1	2	3	4	5	6
⑦社会通念やしきたり・慣習では	1	2	3	4	5	6
⑧社会全体としては	1	2	3	4	5	6

問6 あなたは、児童や生徒に対して「男だから〇〇しなさい」や「女だから〇〇しなさい」と言うことがありますか。(○印1つ)

1 よく言う
2 ときどき言う
3 あまり言わない ----> <u>問8へお進みください</u>
4 言わない -----> <u>問8へお進みください</u>

問7 【問6で「1」「2」と答えた方におたずねします】

どのようなことについて言うことがありますか。(○印いくつでも)

1 ことばづかい	8 運動等をやりぬく気力や体力	15 気配り
2 礼儀作法	9 児童・生徒が泣いたとき	16 積極性
3 服装・身だしなみ	10 決断力	17 素直さ
4 整理整頓	11 思いやり	18 協調性
5 成績(進路も含む)	12 指導力	19 責任感
6 帰宅時間	13 忍耐力	20 社会貢献
7 手伝い	14 たくましさ	21 その他()

問 12 あなたは、次の用語の意味を知っていますか。（○印1つずつ）

	知っている 内容まで	見聞きした ことがある	知らなかった												
<p>①ジェンダー しきたりや慣習など、社会的、文化的につくられた「男らしさ」「女らしさ」という性別に関する意識。</p>	1	2	3												
<p>②ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和） 「仕事」と「仕事以外の生活（育児や介護、趣味、学習、地域活動等）」とのバランスを取り、その両方を充実させる働き方、生き方のこと。</p>	1	2	3												
<p>③女性活躍推進法（女性の職業生活における活躍の推進に関する法律） 働く場面で活躍したい全ての女性が、その個性と能力を十分に発揮できる社会を実現するため、事業主に数値目標を盛り込んだ行動計画の策定や情報の公表などを義務付けた法律。（常時雇用する労働者が 300 人以下の民間企業等は努力義務）</p>	1	2	3												
<p>④ドメスティック・バイオレンス（DV） 夫婦や恋人などの親密な関係にある（あった）パートナーからの暴力のこと。（夫婦には、婚姻届を出していない事実婚や 同性婚を含む。）</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tbody> <tr> <td style="width: 20%;">身体的暴力</td> <td>殴る、蹴る、首を絞める、髪を引っ張る など</td> </tr> <tr> <td>精神的暴力</td> <td>大声で怒鳴る、無視する、大切にしているものを壊す など</td> </tr> <tr> <td>経済的暴力</td> <td>生活費を渡さない、外で働くことを邪魔する など</td> </tr> <tr> <td>性的暴力</td> <td>性行為を強要する、避妊に協力しない、妊娠・中絶を強要する など</td> </tr> <tr> <td>社会的隔離</td> <td>勝手にメールなどを見る、家族や友人との付き合いを制限する など</td> </tr> <tr> <td>子どもを巻き込んだ暴力</td> <td>子どもに暴力を見せる、子どもの前でパートナーをバカにする など</td> </tr> </tbody> </table>	身体的暴力	殴る、蹴る、首を絞める、髪を引っ張る など	精神的暴力	大声で怒鳴る、無視する、大切にしているものを壊す など	経済的暴力	生活費を渡さない、外で働くことを邪魔する など	性的暴力	性行為を強要する、避妊に協力しない、妊娠・中絶を強要する など	社会的隔離	勝手にメールなどを見る、家族や友人との付き合いを制限する など	子どもを巻き込んだ暴力	子どもに暴力を見せる、子どもの前でパートナーをバカにする など	1	2	3
身体的暴力	殴る、蹴る、首を絞める、髪を引っ張る など														
精神的暴力	大声で怒鳴る、無視する、大切にしているものを壊す など														
経済的暴力	生活費を渡さない、外で働くことを邪魔する など														
性的暴力	性行為を強要する、避妊に協力しない、妊娠・中絶を強要する など														
社会的隔離	勝手にメールなどを見る、家族や友人との付き合いを制限する など														
子どもを巻き込んだ暴力	子どもに暴力を見せる、子どもの前でパートナーをバカにする など														

続く



	内容まで 知っている	見聞きした ことがある	知らなかった								
⑤デートDV 一緒に暮らしていない恋人同士などの間で起こるドメスティック・バイオレンス（DV）のこと。	1	2	3								
⑥LGBT 次の4つの頭文字から表現した言葉で、性の多様性を表す。「セクシュアルマイノリティ」とも呼ばれ、L、G、B、T以外の人たちもいる。 <table border="1" data-bbox="177 846 956 1070"> <tbody> <tr> <td>L（レズビアン）</td> <td>女性の同性愛者</td> </tr> <tr> <td>G（ゲイ）</td> <td>男性の同性愛者</td> </tr> <tr> <td>B（バイセクシュアル）</td> <td>両性愛者</td> </tr> <tr> <td>T（トランスジェンダー）</td> <td>からだところの性が一致しない人</td> </tr> </tbody> </table>	L（レズビアン）	女性の同性愛者	G（ゲイ）	男性の同性愛者	B（バイセクシュアル）	両性愛者	T（トランスジェンダー）	からだところの性が一致しない人	1	2	3
L（レズビアン）	女性の同性愛者										
G（ゲイ）	男性の同性愛者										
B（バイセクシュアル）	両性愛者										
T（トランスジェンダー）	からだところの性が一致しない人										

問 13 あなたは、児童や生徒の「デートDV」を見聞きしたことがありますか。（○印1つ）

1 ある	2 ない
------	------

問 14 あなたは、児童や生徒から「デートDV」について相談を受けたことはありますか。（○印1つ）

1 ある	2 ない
------	------

問 15 あなたの学校では、男女平等・男女共同参画に関する教育に、どの程度取り組んでいますか。（○印1つ）

1 積極的に取り組んでいる 2 取り組んでいる 3 あまり取り組んでいない 4 全く取り組んでいない

問 16 あなたは、男女共同参画の実現のために、学校でどのような取組が必要だと思いますか。
(○印いくつでも)

- 1 社会における固定的な性別役割分担の問題点の指摘
- 2 教科書における男子と女子の描かれ方の点検
- 3 学校が出すたよりや、広報誌等における男女平等に関する表現の留意
- 4 性別にとらわれない進路選択やキャリア教育の実施
- 5 教育環境におけるセクシュアルハラスメントの防止
- 6 リプロダクティブヘルス/ライツ※¹に関する健康と権利の確立
- 7 メディア・リテラシー※²教育の充実
- 8 男女平等に関する教育についての研修への参加
- 9 保護者に対する性別にとらわれない教育の啓発
- 10 男女平等に関する教職員の意識改革
- 11 男女平等に関する管理職の意識改革
- 12 男女平等やセクシュアルハラスメント、性等に関する相談窓口の設置
- 13 行政による積極的な取組（男女平等に関するプランや指針づくり等）
- 14 多様な選択を可能にする教育・学習の充実
- 15 その他（)

※1 リプロダクティブヘルス/ライツとは

女性が、生涯をとおして自らの身体について自己決定を行い、健康を享受する権利。
家族計画や母子保健、思春期保健を含む生涯を通じた性と生殖に関する健康などを言います。

※2 メディア・リテラシーとは

テレビ番組や新聞記事などメディアからのメッセージを正しく読み解く能力。

問 17 あなたは、男女共同参画を積極的に進めるために、さぬき市にどのようなことを期待しますか。（○印3つまで）

1 人権を守ったり、人権を侵害された被害者を支援したりする取組を進める
2 パンフレットや情報紙の発行など、広報・啓発活動を充実させる
3 条例や制度などの整備・見直しを進める
4 学校での男女平等教育を充実する
5 公民館などの社会教育施設での男女平等教育を充実する
6 DVや虐待などの問題について、気軽に相談できる体制づくりを進める
7 市が開催する会議など政策決定の場に、女性を積極的に登用する
8 女性を対象とした就業やステップアップのための取組を進める
9 性別を問わず働きやすい職場をつくるため、企業などへの支援・啓発を強める
10 性別を問わず参加しやすい地域活動やボランティア活動を支援・活性化させる
11 男女共同参画推進を目指す市民活動を支援する
12 外国人など多様な人との交流や情報提供など、多文化共生の理解を進める
13 からだとところの特性に応じた生涯にわたる健康づくりを進める
14 育児や家庭生活などに、男性の積極的な参加を促す
15 子育て支援サービスを充実させる
16 高齢者や障害者などの介護・介助を支援するサービスを充実させる
17 LGBTなどの多様な性を認める意識づくりを啓発する
18 非正規労働者やひとり親など、生活上の困難に直面する家庭を支援する
19 その他（ ）
20 特にない

問 18 男女共同参画についてのご意見・ご要望などがありましたら、自由にお書きください。

～ご協力ありがとうございました～

**「第2次さぬき市男女共同参画プラン（後期計画）」
男女共同参画に関する意識調査報告書
【教職員アンケート】**

発 行 / 平成30年（2018年）1月
発 行 者 / 香川県 さぬき市
問 合 せ 先 / さぬき市 総務部 秘書広報課 男女共同参画・国際交流推進室
〒769-2195 香川県さぬき市志度5385番地8
TEL（087）894-1660
FAX（087）894-4440
E - M a i l / danjokokusai@city.sanuki.lg.jp
